

新潟大学医歯学総合病院



所在地

新潟市中央区旭町通一番町754番地

TEL

025-227-2408（総務課総務係）

ホームページ

<https://www.nuh.niigata-u.ac.jp>

診療科目

循環器内科、内分泌・代謝内科、血液内科、腎・膠原病内科、呼吸器・感染症内科、心療内科、消化器内科、肝胆脾内科、脳神経内科、腫瘍内科、精神科、小児科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、形成・美容外科、小児外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、産婦人科、放射線治療科、放射線診断科、麻酔科、救急科、リハビリテーション科、病理診断科、医科総合診療科、口腔外科系歯科、矯正・小児系歯科、予防・保存系歯科、摂食機能・補綴系歯科、歯科総合診療科

病床数

827床

医師数

常勤：515人 非常勤：418人

患者数

入院（R2年度）	年間延べ患者数	251,054人	1日平均患者数	688人
外来（R2年度）	年間延べ患者数	519,668人	1日平均患者数	2,138人

病院の特徴等

新潟大学医歯学総合病院は、前身の病院から数えると創立100周年を超えた我が国有数の伝統をもつ病院であり、新潟県内外の多くの医療機関との密接なネットワークを持っています。

「生命と個人の尊厳を重んじ、質の高い医療を提供するとともに、人間性豊かな医療人を育成する」を本院の理念としています。

また、「患者さん本位の安全で安心できる医療を提供する」、「研究成果を反映した高度で先進的な医療を実践する」、「地域連携を推進するとともに地域の医療水準の向上に貢献する」といった、患者さんに良質な医療を提供する特定機能病院としての目標とともに、「豊かな人間性と高い倫理性を備えた質の高い医療人を育成する」という県内唯一の医療機関としての目標も掲げており、様々な取組を行っています。



アピールポイント

- すべての基本領域、内科・外科のサブスペシャリティ領域の専門研修プログラムに対応。
- 高度先進医療から地域医療まで、多様な専門研修プログラムを提供。
- 各プログラムとも、経験豊かな指導医が豊富。

施設等の紹介

- あゆみ保育園 医師・看護師を含む職員の乳幼児の預託および保育利用を目的に、敷地内に保育園を設置しています。
- 新潟医療人育成センター 高度医療に対応した医師の育成を目的とし、内視鏡・腹腔鏡など、専門研修に必要な高度シミュレーターや、模擬病室なども備え、高度な医療技術習得をサポートします。様々な研修会も開催されています。
- アメニティモール 外来棟脇に建設された施設です。レストランdining ASAHI・LAWSON・TULLY's COFFEE・美容室Sun-trap College
- 社員食堂・売店



新潟医療人育成センター



レストランdining ASAHI



LAWSON



TULLY's COFFEE



社員食堂



売店

内科専門研修プログラム

■ 研修概要

オール新潟（大学基幹）内科専門研修プログラム（以下、本プログラムと称する）は、内科を主専攻科として内科専門医を目指す後期研修医（以下専攻医）を対象とします。内科の領域を偏りなく学ぶ「内科基本コース」、希望するサブスペシャリティ領域を重点的に研修する「サブスペ重点コース」とがあります（詳細は各サブスペシャリティ領域のプログラム参照）。「内科基本コース」では専攻医は医師キャリア支援センターに所属し、サポートを受けます。一方「サブスペ重点コース」では専攻医はサブスペシャリティ領域診療科に所属し、その科と他の内科領域が密接に連携をとりながら研修を進めます。リサーチマインドを持った専攻医は大学院進学も早めにできるよう構成しています。

■ アピールポイント

- 内科専門医を取得後、さらにサブスペシャリティ科専門医への取得を目指す方に！
- 豊富な症例、多彩な連携研修施設を用意し、専攻医の希望に沿うことも可能

■ 特色

- 原則として3年間で内科専門医を取得！最多の症例数！
- 内科専門医取得後のサブスペシャリティ専門医までを見据えたキャリアプラン！
- 新潟県内56施設、県外7施設の豊富な連携研修施設群！
- 大学病院内科系診療科の垣根を越えた指導体制とフォローアップ体制！
- 過去3年間で100名の指導実績！（平成30年度は39名の登録実績！）
- 自分の志望が決まれば大学院進学も含め多様なキャリアパスをサポート！
- 新潟医療人育成センターにも近接し、高度シミュレーターも使用しやすい環境！

指導医からのメッセージ

「オール新潟（大学基幹）内科専門研修プログラム」は内科医師として働き、スキルを身につけたいと考えている人はもちろん、リサーチをしたいと考えている人にも対応できるよう、柔軟なプログラムとなっています。新潟県内の主立った医療機関はすべて連携施設として登録してありますので、奨学金を受給していた専攻医のキャリアパス形成もサポートできるようになっています。サブスペシャリティが決まっていない専攻医には医師キャリア支援センター担当者が対応しつつ、すべての内科系診療科と密接に連携し、多様なキャリアパスをサポートします。また、後述するように連携施設から研修を開始することもできます。

多くの専攻医がこのプログラムに参加してくれることを期待しています。一緒に内科医師として研鑽を積んでいきましょう！

■ 連携施設の病院名

〈県内〉 柿崎病院 県立中央病院 上越地域医療センター病院 新潟労災病院 妙高病院 糸魚川総合病院 上越総合病院 けいなん総合病院 小出病院 新潟病院 津南病院 十日町病院 松代病院 見附市立病院 魚沼基幹病院 ゆきぐに大和病院 南魚沼市民病院 柏崎総合医療センター 三条総合病院 済生会三条病院 長岡中央総合病院 長岡赤十字病院 小千谷総合病院 立川総合病院 あがの市民病院 津川病院 加茂病院 両津病院 新発田病院 リウマチセンター 吉田病院 燕労災病院 がんセンター新潟病院 新潟市民病院 西新潟中央病院 坂町病院 佐渡総合病院 豊栄病院 新潟医療

研修期間 3年

募集人数 50名

選考方法 サブスペシャルティ科により異なる

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 新潟地域医療学講座 井口 清太郎

センター 済生会新潟病院 村上総合病院 脳神経センター阿賀野病院 五泉中央病院 下越病院 新津医療センター病院
 亀田第一病院 総合リハビリテーションセンターみどり病院 新潟万代病院 新潟南病院 日本歯科大学医科病院 信楽園
 病院 新潟脳外科病院 木戸病院 桑名病院 新潟臨港病院 新潟白根総合病院
 〈県外〉 秋田赤十字病院 鶴岡市立荘内病院 山形県立中央病院 竹田総合病院 水戸済生会総合病院 埼玉県済生会川口
 総合病院 榊原記念病院

■ 研修コース

①基本コース

		1年目	2年目	3年目
内科基本コース	初期研修	連携施設での研修	大学で内科各領域を研修	
		↑	↑	↑
		連携施設での研修は1～3年目のどの時点でも設定可能		
サブスペ重点コース	初期研修	サブスペ専攻科を決めて併行研修		
内科基本コース → サブスペ重点コース	初期研修	大学で内科各領域を研修	サブスペ専攻科で併行研修	
内科基本コース → サブスペ重点コース	初期研修	大学で内科各領域を研修		サブスペ専攻科で併行研修
		↑	↑	↑
		どの時点でサブスペ重点コースに移ることも可能		

■ その他参考情報

本プログラムにおいては全研修期間3年のうち、新潟大学医歯学総合病院において1年間以上、かつ連携施設（特別連携施設を含む）で1年間以上の研修を満たせば、そのローテーション順序・期間については自由に設定することが可能となっています（例：大学病院以外で2年間も可能。また大学病院以外の連携施設から研修を開始することも可能）（上図参照）。専攻医は指導医と個別に相談しながら、それぞれのニーズに合った研修ができます。その際、将来のサブスペシャルティ領域を限定せずに、幅広く内科一般を経験しその中でサブスペシャルティを決めていきたい先生は、特定の診療科に所属することなく研修を進めることもできます（内科基本コース）。その場合、プログラム開始後は医師キャリア支援センターに籍を置き、センターが各専攻医の研修診療科・連携研修施設や研修の順序・期間に関する相談を受け付けます。また、プログラム途中でサブスペシャルティ専攻科が決まった場合には、内科基本コースからサブスペ重点コースへの移行も可能です。一方、既に専攻したいサブスペシャルティ専攻科が決まっている先生は、そのサブスペシャルティ領域を担当する専門診療科に籍を置き、その科と相談しながら連携研修施設を決めていくことになります（サブスペ重点コース）。

問い合わせ先

担当者 新潟大学医歯学総合病院医師キャリア支援センター

E-mail nar@adm.niigata-u.ac.jp

循環器内科専門研修コース

■ 研修概要

本コースでは、循環器内科の知識と技術を総合的に習得したうえで、より専門的・先進的な循環器医療に貢献できる人材を育成することを目的とします。新潟大学および関連病院の症例数は豊富で指導体制が整っているため、十分な症例について臨床経験を積むことができ、キャリアアップにつながります。専門医の取得に必要な症例数を経験できるよう、症例数の多い連携施設で2年間研修を行い、続いて大学病院で難治例を含め一例一例をしっかりと学べる体制としています。本コースを通して、虚血性心疾患、不整脈疾患、心筋症、心不全、肺高血圧症などの多岐にわたる循環器疾患の診療や手技を学ぶとともに、心エコーなど画像診断、心臓リハビリテーションについても専門的知識の習得が可能です。新専門医制度移行後も、速やかに循環器専門医を取得できることも特長です。

また、内科専門医を所得するために必要な内科症例については連携施設ならびに大学病院での後期研修中に経験することができます。その後は、希望に応じ主に大学院で研究に専念する大学院コース、もしくは専門施設で技術を磨くスペシャリスト育成コースとなり、いずれのコースでも専門医取得後の道も大きく開けるようにしています。また、ライフイベントなどに応じて進路について個別に相談することもできます。



■ 特色

コースの名前のとおり専門医養成が大前提であり、本コースを通常どおりに行えば、新内科専門医、循環器専門医は問題なく取得できる。これと並行して目標とするのは、現在の医療の限界を認識し、限界を突破するための探究心を育むことである。専門研修の早期で、多くの患者さんと接し、徐々に専門的、先進的な診療・研究を進めることで、専門医を取得したときには、生涯にわたり質の高い医療を実践しつづけられるようになる。

循環器内科専門医が追及すべき領域には、循環器疾患に専門特化した診療・治療はもちろんのこと、その背景である高血圧、脂質異常症、メタボリックシンドローム、動脈硬化なども含まれる。疾患の成因を分子レベルで解明したり、疫学研究をととして疾患の背景をコントロールしたり、地域の診療に貢献したりすることもできるよう指導し、患者さんを中心に、分子や社会にまで広く視野に入れることのできる医師を育てる。

指導医からのメッセージ

循環器疾患は、急性期には重症であることも少なくありませんが、有効な治療法が多いため、退院時には自力歩行で退院される患者さんが多いことが特徴で、やりがいを感じることができます。循環器内科では、救急患者さんを診ることも多いので、自然に救急処置のスキルが身に付いていきます。カテーテル手術や植込みデバイス手術、薬物治療の他に、心エコーを始めとした画像診断や心臓リハビリテーションなどについても指導体制があるため様々な分野で専門性を発揮する進路があります。一方で、全身管理について知識も深まるため、将来的には一般内科医として、様々な疾患治療や地域医療を担うことも可能となります。また、教室の基礎・臨床研究のレベルは大変高く、学術面の活動にも力を入れています。ぜひ循環器内科で一緒に仕事しましょう！

研修期間 3年～

募集人数 制限なし

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 循環器内科 教授 猪又 孝元

■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 新潟医療センター 済生会新潟病院 信楽園病院 木戸病院 県立がんセンター新潟病院 桑名病院 新潟南病院 県立新発田病院 燕労災病院 立川総合病院 長岡中央総合病院 長岡赤十字病院 県立中央病院 柏崎総合医療センター 村上総合病院 佐渡総合病院 鶴岡市立荘内病院 榊原記念病院 国立循環器病研究センター病院 水戸済生会総合病院 埼玉県済生会川口総合病院

■ 研修コース



■ 各種学会認定専門医数

日本循環器学会認定循環器専門医：17人
日本内科学会認定総合内科専門医：16人
日本心血管インターベンション治療学会専門医：2人
日本心血管インターベンション治療学会認定医：6人
日本不整脈心電学会学会不整脈専門医：4人
日本超音波医学会超音波専門医：1人
心臓リハビリテーション指導士：4人
日本救急医学会認定救急科専門医：1人
日本臨床検査医学会臨床検査管理医：1人

■ 各種学会専門医修練施設としての認定

日本循環器学会：認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション治療学会：認定研修施設
日本不整脈心電学会：認定不整脈専門医研修施設
日本超音波医学会：認定専門医研修施設
日本心臓リハビリテーション学会：認定心臓リハビリテーション実施施設

問い合わせ先

担当者 総括医長 柳川 貴央

TEL 025-227-2185

FAX 025-227-0774

E-mail takao-ya@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/car/>

血液・内分泌・代謝内科専門研修コース

■ 研修概要

【血液内科】

血液疾患診療を通じて内科全般の総合的な力を身につけることができ、内科専門医の取得は容易である。症例、指導医とも充実した大規模研修病院（大学病院、関連基幹病院）を複数経験することで、優秀な血液専門医を短期で育成するとともに、がん治療認定医、造血細胞移植認定医、輸血・細胞治療学会認定医など各種専門医資格も容易に取得できる。血液学は基礎研究と日常臨床が近接しているので、希望者は研究機会を得、physician scientistとして活躍することも可能である。最初の2年は大学あるいは連携教育病院で臨床研修を行い、3年目以降は、本学または連携教育病院での研修、または大学院進学など本人の希望と調整によって選択可能である。

【内分泌・代謝内科】

総合診療能力を有する専門医として、総合内科専門医、糖尿病専門医、内分泌代謝専門医、動脈硬化専門医、甲状腺専門医などの資格取得が可能である。そのために、糖尿病や内分泌疾患、脂質異常症、肥満症や高血圧症などの各種代謝・内分泌疾患のマネージメントを学び、合併症抑制と健康寿命延伸のための臨床経験を磨く。比較的、ゆとりのある研修体制を生かし、希望者は研究（臨床、基礎）も併行可能である。コース修了後、海外留学も可能である。新潟県社会医学系専門研修プログラムとも連携しており、社会医学系専門医を同時に目指す道もある。最終的には、臨床現場でエビデンスに基づく診療体系を組み立て、開業から大病院まであらゆる状況に対応可能な専門医を育成し、患者さんと社会へ貢献することを目標とする。

■ アピールポイント

【血液内科】

血液内科では診断から治療までを一貫して行う能力を有する医師を育てる。化学療法や造血幹細胞移植では感染症など様々な合併症の管理も必須であり、血液検査、画像検査、病理検査、染色体遺伝子検査などに対する深い知識を身につけることで総合的な医療を行う能力が自然に身に付く。また、国内外の様々な多施設共同研究に参加しており、質の高い最新の臨床研究にふれることが出来る。血液学会認定専門医、輸血・細胞治療学会認定医、造血細胞移植認定医、がん治療認定医、がん薬物療法専門医、総合内科専門医などの資格取得が可能な研修体制を組んでいる。基礎研究や臨床研究もさかんに行われており、希望により海外留学も可能。血液学では細胞生物学・分子生物学免疫学などの手法を用いた基礎研究がそのまま臨床診断や治療に応用されるため、基礎研究と臨床医療との間に距離感を感じることがない。学問のためのみの研究ではなく、患者診療に有益な研究を行なっている。

【内分泌・代謝内科】

総合診療医としての知識・技術を体得した上で、総合内科専門医、内分泌代謝専門医、糖尿病専門医、甲状腺専門医、動脈硬化学会専門医などの資格取得を目指し、内分泌疾患と共にあらゆる代謝疾患（糖尿病、脂質異常症、肥満症、高血圧症、痛風、骨粗鬆症、メタボリックシンドロームなど）について、食事・運動などの生活習慣指導も含めてコントロールできる専門医を育てる。

特に動脈硬化や血管合併症を促進する各種リスクファクターのマネージメントについては、チーム医療を通じた療養指導体制の構築や地域医療、病診連携も含めて学び、地域の代謝内分泌疾患予防・治療の指導的役割を担える専門医を養成する。将来の進路により、開業から基幹病院部科長、大学教員、基礎研究者、行政担当者などあらゆる進路に対応できる個人別オーダーメイド研修体制を組んでおり、多彩な基礎研究や臨床研究も盛んに行われている。希望により海外留学ももちろん可能となっている。

【血液&糖尿病ダブル専門医を目指す方へ】

大学でも一般病院でも、内科は臓器別細分化の一途をたどっている。その中で私たちの教室は「生活習慣病も腫瘍性疾患も」幅広くカバーする数少ない総合内科といえる。

血液内科の中心を占める造血器腫瘍は、診断から治療までのすべてを内科医が管理できるほぼ唯一の癌であり、将来のがん治療の中心となる分子標的薬を含む新しい化学療法が、次々と導入されている臨床腫瘍の最先端分野である。幹細胞移植では、最重症の感染症や全身各臓器の合併症に適切に対処する力も身につく。

研修期間 4～6年

募集人数 12名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 血液・内分泌・代謝内科 教授 曾根 博仁

一方、膨大な数の患者さんがおられる糖尿病は、最も管理の難しい生活習慣病診療の最高峰である。チーム医療のリーダーとして、生活習慣指導と多彩な薬物療法を患者さんごとにデザインすることにより動脈硬化疾患や腎透析を予防し、健康寿命を最大化するプロセスは、まさに内科的管理の極致と言える。したがって両分野の専門医を取得した暁には、「極めて広い守備範囲を持つ理想的なホスピタリスト」や「診断だけでなく治療も自らこなせる本物の総合内科医」が実現できる。もちろんこれからますます重要となる地域医療や在宅医療の担い手としても最適と考えられる。当科は、両方の専門医が同時取得できるわが国の数少ない拠点であり、豊富なスタッフと症例に恵まれた大学ならではの集中的な研修コースとして、プライマリーケア、家庭医療、総合診療専門医のグレードアップ研修コースにも用いられる。究極を目指す、腕に自信のある全国の研修医の皆さんの挑戦をお待ちしている。

指導医からのメッセージ

当科で研修可能な【血液内科】と【内分泌・代謝内科】はいずれも、診断から治療まで自分でじっくり考えながら診療を行える分野です。感染症など他臓器の合併症も診る機会が多いので、幅広い総合内科専門医としての知識が自然と身に付きます。特別な手技に頼ることもありませんので、年をとってからも生涯仕事を続けられるやりがいのある分野です。また専門医が非常に不足している分野ですので、常に多くの病院の部長としての需要があります。当科の仲間に加わり研修を行うことで内科医としての醍醐味を味わいながら、しっかりした総合的な臨床の実力が身に付くことでしょう。真の内科医を目指す皆さんの御参加をお待ちしています。

連携施設の病院名

【血液内科】 県立中央病院 県立新発田病院 済生会新潟病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 柏崎総合医療センター 長岡中央総合病院 佐渡総合病院 魚沼基幹病院 県立加茂病院 新潟南病院

【内分泌 代謝内科】 県立中央病院 長岡赤十字病院 済生会新潟病院 長岡中央総合病院 新潟医療センター 佐渡総合病院 木戸病院 県立新発田病院 新潟市民病院 柏崎総合医療センター 魚沼基幹病院 あがの市民病院 万代病院 小千谷総合病院

研修コース

①基本コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
初期研修	大学病院12～24か月／連携病院12～24か月 内科専門医研修、専攻サブスペ研修：下記3パターン選択可能 専攻サブスペ：●血液のみ ●内分泌代謝のみ ●両方			臨床修練 (専攻サブスペ分野)			
	研究▶ (希望者のみ。開始時期や力の入れ具合も自由に選択)			学位取得 (最短卒後5年) 社会医学系専門医など			
	新潟大学内科専門プログラム (レジデント)			医員			
	新内科専門医取得			専攻サブスペ分野専門医取得▶		専攻分野に応じ、更に多彩な専門医資格を取得可能▶	

問い合わせ先

担当者 総括医長 瀧澤 淳

TEL 025-368-9026

FAX 025-368-9300

E-mail takijun@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/emh/index.html>

腎・膠原病内科専門研修コース

■ 研修概要

本コースは卒後臨床研修を修了した医師を対象とし、内科専門研修プログラムと連携し、内科専門医取得を目指しながら、並行してサブスペシャルティとしての腎臓病専門医、リウマチ膠原病専門医などを養成する。原則として5～9年の研修期間の中で、各種腎炎と病理学的診断、酸塩基平衡・電解質異常、慢性腎不全、急性腎障害、透析療法、腎移植に至る腎臓病領域と、関節リウマチを初めとする各種自己免疫疾患に対して、幅広い知識と技能を有し、独立して、または医療チームのリーダーとして診療できる腎臓病専門医、リウマチ膠原病専門医などを養成する。

上記のサブスペシャルティ分野の研修は、カリキュラム制が主体である。したがって、基本的には下記の2コースを上げるが、個々のライフプランや状況に応じた柔軟な研修が可能である。

Aコースでは臨床研修プログラムの期間の中で、腎・膠原病内科学分野の大学院生として臨床に即した基礎研究または臨床研究に専念する期間を設け、早期の学位取得を目指す。原則として専門研修1～2年目は新潟大学医歯学総合病院または内科専門研修連携病院で内科全般の研修を行う。専門研修2～3年目以降、希望に応じて大学院博士課程に入学し、基礎研究、臨床研究を行う。大学院博士課程入学後は2～3年間のベッドフリー期間を設け、腎・膠原病内科学講座あるいは学内外の基礎講座において研究に専念する。ベッドフリー期間終了後は当院の腎・膠原病内科医員として、大学院在学中に不足した内科専門研修プログラムを再開し、内科専門医取得に必要な症例も随時経験して内科専門医研修を修了し、内科専門医取得を目指しつつ、腎・膠原病内科研修も並行して行う。関連病院出向の際には各自が選択した腎臓学会、リウマチ学会等の認定連携施設において、腎内科、リウマチ膠原病内科の研修を専門医取得まで継続する。

Bコースでは、内科専門医研修および腎・膠原病内科研修を優先的に並行して行い、最短で4年（卒後6年目）で内科専門医を取得しつつ、サブスペシャルティとして腎臓専門医、リウマチ専門医取得を目指す。その後大学院に入学することも可能である。また同時に、希望に応じて透析、高血圧、糖尿病、老年病の各学会専門医取得を目指すことも可能である。

■ アピールポイント

- 内シャント設置、腹膜透析カテーテル埋込手術を修得できます。
- 各種血液浄化療法を修得できます。
- 多彩なリウマチ・膠原病疾患の診断・治療を修得できます。

■ 特色

伝統と先進性を誇る腎臓内科診療では、腎生検、酸塩基平衡・電解質異常から腎不全の透析治療、腎移植まで、腎臓内科専門医として要求されるすべてのケースに対応できるように研修することができます。特に、腎代替療法が必要な慢性腎不全患者に対し、ブラッドアクセスのための内シャント作成手術や腹膜透析カテーテル留置術の手技も当科で習得できます。また、急性腎不全・多臓器不全に関連する救急医療・集中医療でも数多くの経験を積むことができます。さらに、透析導入の原因疾患の第一位となる糖尿病性腎症に対し、当科では糖尿病に対する診療にも力を入れています。研究面においては、臨床病理学的な研究から遺伝子レベルの研究、さらには遺伝子治療・再生医療など新しい治療法の開発に向けた基礎研究も幅広く展開しています。膠原病内科診療では、多臓器に渡る多彩な合併症を呈する疾患を対象とするため、全身を診る全人的診療の基本を身につけることを目標とし、自己免疫疾患、リウマチ性疾患の診断・治療について専門的に研修できます。研究面においては、膠原病の臨床研究を中心とし、基礎研究では、免疫学的研究、遺伝子研究を展開しています。腎臓病、リウマチ膠原病のいずれの研究においても、希望に応じてベッドフリーで研究に専念できる期間を設けており、4年間の大学院博士課程修了までに学位を取得することを目標としています。また、新潟大学には国内唯一の腎研究センターがあり、臨床部門である当診療科の他、基礎部門およびトランスレーショナル部門が一体となり、互いに交流しながら研究を進めていることも特徴の一つです。

研修期間 5～9年

募集人数 毎年10名まで

選考方法 面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 腎・膠原病内科 教授 成田 一衛

指導医からのメッセージ

病理学的な確定診断のもとに完治を目指す糸球体腎炎、生命維持に直結し、ダイナミックな動きを見せる酸塩基平衡・電解質異常、多臓器不全の重症患者を救う血液浄化療法、生物学的製剤の登場で治療法において飛躍的な進歩を遂げたリウマチ膠原病など、腎・膠原病内科領域の疾患は、非常にやりがいと将来性のある分野であると同時に、高い専門性が要求される分野でもあります。また血圧、血糖、脂質の管理など、生活習慣病への対応から、全身管理に必要な総合力を培う面でも大変有利な知識と技能が身につきます。研修終了後には国外留学を含めて、多彩な活躍の場があります。腎臓病専門医、リウマチ膠原病専門医を目指して共に医療の現場を分かち合う皆さんをお待ちしております。

■ 連携施設の病院名

新潟県立中央病院 新潟県立新発田病院 新潟県立リウマチセンター 新潟市民病院 長岡赤十字病院 済生会新潟病院
厚生連糸魚川総合病院 厚生連長岡中央総合病院 厚生連佐渡総合病院 厚生連小千谷総合病院 厚生連柏崎総合医療セン
ター 立川総合病院 信楽園病院 新潟臨港病院 鶴岡市立荘内病院 新潟大学地域医療教育センター魚沼基幹病院

■ 研修コース

①基本コース

	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	7 年目	8 年目	9 年目
A コース	内科専攻医として ・内科全般研修 ・連携病院出向		大学院生として ・基礎研究/臨床研究 (大学院博士課程) →腎・膠原病内科 →基礎講座出向		腎・膠原病内科医員として ・内科全般研修 →内科専門医取得 ・腎・膠原病内科研修		関連病院出張医として ・腎・膠原病内科研修 →腎臓／リウマチ専門医取得など		
大学院入学＋専門医取得									
B コース	内科専攻医として ・内科全般研修 ・連携病院出向		腎・膠原病内科医員として ・内科全般研修 →内科専門医取得 ・腎・膠原病内科研修		関連病院出張医として ・腎・膠原病内科研修 →腎臓／リウマチ専門医取得など				
専門医取得優先									

問い合わせ先

担当者 総括医長 中枝 武司

TEL 025-227-2193

FAX 025-227-0775

E-mail nakatsue@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/nephrol/>

呼吸器・感染症内科／心療内科専門研修コース

■ 研修概要

【呼吸器・感染症内科】

呼吸器・感染症内科コースは卒後臨床研修を修了した医師を対象とし、内科専門医取得のための内科研修を行いながら、その後の呼吸器専門医取得にスムーズ移行できるようなカリキュラムです。また本コースは呼吸器専門医をメインに案内していますが、要望に応じて、アレルギー専門医、感染症専門医を取得するコースも選択できます。コースの概略として、一般内科研修の履修状況に応じて、大学院コース（学位取得コース）、内科研修重点コース、専門研修重点コースの中から選択します。専門医所得に関しては、コースによって若干異なりますが、専門研修がスタートした4年目以降で取得可能となります。

【心療内科】

心療内科コースは、全人的医療の実践及びストレスと身体疾患との関係について調査し臨床に生かすことを目標とします。研修方法は、卒後臨床研修了後一般内科後期研修、心療内科研修、および大学院での研究期間に分けられます。

Aコースは、内科専門研修を3年間行った後、大学院に正規入学し、呼吸器感染症内科あるいは基礎教室で2年間研究します。その後、呼吸器感染症内科、関連病院で心療内科の臨床研修を行い、心療内科専門医を取得します。Bコースは、内科専門研修を3年間行った後、呼吸器感染症医員として心療内科臨床研修を開始。医員に在職しながら社会人大学院特別選抜で入学、呼吸器感染症内科あるいは基礎教室で2年間研究、続いて呼吸器感染症内科と関連病院で専門研修をし、専門医資格を取得します。Cコースは、呼吸器感染症内科と関連病院で専門研修を行い、その後専門医資格を取得、この間臨床研修の傍ら臨床研究を行います。

■ アピールポイント

- 感染症、腫瘍、アレルギー、変性疾患、呼吸生理など、幅広く様々な疾患について学ぶことが出来ます。
- 基礎研究、臨床研究、translational researchのspecialistが揃っており、興味に応じた研究指導を受けることが出来ます。

■ 特色

【呼吸器・感染症内科】

一人前の呼吸器内科医になるには、画像読影、適切な気管支鏡スキル、非侵襲人工呼吸器を含めた呼吸管理と全身管理、適切な抗菌薬の選択、心理的ケアを含めた肺癌診療、等のすべてを習得することが必要です。臨床の現場では誤嚥性肺炎などは院内のどの病棟でも発症しますし、ICUには一年を通じてほぼいつでも呼吸不全の症例がいます。さらに当施設では、腎臓原病内科と病棟を共有しているため、それら各種疾患に関連した肺病変（間質性肺炎、血管炎、日和見感染症など）の症例も多く、多方面の指導を受けることができます。肺癌、閉塞性肺疾患、稀少肺疾患の臨床治験にも積極的に参加しており、最先端の治療の経験もできます。

研究面では、各分野の教官による基礎研究（動物モデルを用いた）、臨床研究が盛んに行われています。主に研究は、大学院コースで研究専任として行われますが、他のコースにおいても、臨床研究の結果から論文作成し、学位を取得することは可能です。また研究施設は当科だけでなく、基礎系教室、他施設への国内留学も随時行っており、本人の希望を考慮しながら選択できます。

現在までに多くの先生が専門医・指導医を取得しており、その状況は下表のとおりです。つまり本コースを選ぶことにより、呼吸器専門医などの専門分野の専門医をスムーズに取得することができます。

【心療内科】

呼吸器内科、感染症内科、心療内科で心身医学の研修を行う特徴は、原則として身体疾患を持つ患者さんを研修対象としていることです。心身医学会の定義にある心身症を中心として研修していますが、外来診療では精神科医の協力も得て、精神的な問題の大きな症例についても研修教育を行っています。具体的な内容について説明します。指導医とともに外来診療を担当しますが、新患は随時、再来は週10～20例程度を指導医のもと受け持っています。疾患分類では、気管支喘息、過敏性腸症候群、高血圧、神経性食思不振症などの狭義の心身症以外に、感情障害、身体表現性障害や不安障害の症例も紹介され受診しています。治療としては、抗不安薬・抗うつ薬による薬物治療、そして自律訓練法などの専門的な治療も行って

研修期間 呼吸器・感染症6年 心療内科5年

募集人数 呼吸器・感染症20名 心療内科3名

選考方法 面接

プログラム責任者

新潟大学医歯学総合病院 呼吸器感染症内科 教授 菊地 利明

います。以上より、心身医学会の専門医や心療内科学会の登録医・専門医として要求されるケースに対応できるように研修することができます。研究面においては、気管支喘息、COPD、呼吸不全、腎不全、糖尿病、歯科領域の疼痛、睡眠などを対象とした計量心理学的な研究が行われています。

指導医からのメッセージ

呼吸器内科は、腫瘍、アレルギー、自己免疫疾患、感染症さらには機能的疾患と非常に多岐に渡る範囲をカバーしなければなりません。大変な分野であります、その分やりがいがあります。また高齢化社会である現代ではもっとも必要とされる分野であります。研究においても分子生物・遺伝子解析から疫学調査などバラエティーに富んだ研究テーマが選べます。外来診療が主となる分野もあるため、女性医師などライフプランに合わせた診療を行うことができます。

連携・関連施設の病院名

【呼吸器・感染症内科】

新発田病院 がんセンター新潟病院 村上総合病院 豊栄病院 柏崎総合医療センター 佐渡総合病院 三条総合病院 あがの市民病院 上越総合病院 長岡中央総合病院 新潟医療センター 済生会三条病院 済生会新潟病院 信楽園病院 新潟市民病院 新潟臨港病院 長岡赤十字病院 木戸病院 立川総合病院 燕労災病院 西新潟中央病院 魚沼基幹病院 県立中央病院 五泉中央病院 十日町病院

【心療内科】

小出病院 十日町病院 三条総合病院 津川病院 柏崎医療センター 上越総合病院

研修コース

①基本コース

【呼吸器・感染症内科】

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目
A コース	一般内科研修 大学病院および連携施設		研究専任 大学院 研究進捗状況に応じて専門研修 大学病院および関連病院		呼吸器専門研修 大学病院および連携施設		呼吸器内科医として活躍 大学病院および関連病院		
B コース	一般内科研修 大学病院および連携施設		呼吸器専門研修 大学病院および連携施設		呼吸器専門研修 大学病院および連携施設		呼吸器内科医として活躍 大学病院および関連病院		
C コース	一般内科研修 大学病院および連携施設		呼吸器専門研修・臨床研究 大学病院および連携施設		呼吸器専門研修・臨床研究 大学病院および連携施設		呼吸器内科医として活躍 大学病院および関連病院		

卒後臨床研修

▲内科専門医取得可能なタイミング

▲呼吸器専門医取得可能なタイミング

▲ 内科専門医取得可能なタイミング

▲ 呼吸器専門医取得可能なタイミング

【心療内科】

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目以降
Aコース	一般内科研修 大学病院および連携施設	基礎研究/臨床研究 (正規大学院) 呼吸器・感染症内科 基礎教室出向		心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	論文博士 取得可能
Bコース	一般内科研修 大学病院および連携施設	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員		心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	論文博士 取得可能
Cコース	一般内科研修 大学病院および連携施設	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員		心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	心療内科研修 呼吸器・感染症内科医員	論文博士 取得可能

問い合わせ先

担当者 総括医長 大嶋 康義

TEL 025-368-9325

FAX 025-368-9326

E-mail kokyukansen@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/resp/welcome.html>

消化器内科専門研修コース

■ 研修概要

本コースは、卒後臨床研修を修了した医師を対象とし、消化器の総合的な専門医“総合消化器内科医”を養成するコースを基本としています。総合的に消化器疾患を診るため消化器病・肝臓・消化器内視鏡専門医の取得とともに、がん治療、総合内科、再生医療、肥満症の各専門医の取得を目指し、大学病院及び各学会認定施設において研修を行います。

● 専門研修プログラムの概略

研修プログラムのコンセプト：当研修コースはカリキュラム制のため、卒後3年目以後の内科専門研修と並行することができます。また医学博士の学位取得のため大学院での研究も可能でClinician-Scientistの育成も目指しています。各自の希望に応じ、学問的志向・人生設計に基づいた希望に沿うようバリエーションを持たせたカリキュラムを組んでいます。人が食物摂取して体の恒常性を維持するためには、消化、吸収、代謝の制御が大切で、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、胆道、膵臓が複雑に連動して機能していることを理解する必要があります。

● 研修プログラム前半

専門研修1年目（卒後3年目）は、消化器疾患のみならず他領域の内科診療の経験を積むことも目的として、関連病院施設で臨床研修を行います。卒後4年目は消化器内科医員等として当院における最先端レベルの診断・治療手技を習得します。各々異なる施設で研修を行ってきた同期の医師達が交流を深め得ることは当施設の大きな利点であり、進むべき専門分野を決定できる重要な研修期間でもあります。

● 研修プログラム後半

卒後5～6・7年目で当教室や学内外基礎研究室の大学院生として基礎研究を行い学位を取得した後、臨床検査・治療手技等の研鑽、基礎研究、後進の指導等に従事するコースや、地域病院での診療を早くから希望する個人に適応した研修を行う目的で、大学病院で適宜研修を行いながら、連携病院を中心に臨床研修を行うコースを用意しています。当科では、次世代を担う総合消化器内科医およびClinician-Scientistを育成していきます。

■ 特色

このコースの最大の特色は、消化器病・肝臓・消化器内視鏡・総合内科専門医の取得が可能だけでなく、肥満症、再生医療、がん治療専門医も取得可能であり、臨床・基礎研究による学位取得や海外留学を含めたバリエーションの多い研修コースを個人の希望に合わせて選択できることにあります。

基礎研究は、“難治進行性消化器疾患”や現時点で診断のつかない“Undiagnosed Disease”に対する新規診断・治療法の開発を目指したテーマで、臨床へフィードバックできるよう取り組んでいます。

また、近年の消化器領域の診断法、治療手技は目覚ましく発展しているため、本研修コースにおいては高度かつ最新の専門知識・技術を有するスペシャリスト達が懇切丁寧な指導にあたっています。他大学病院や県外の内視鏡センター施設との交流も盛んです。

研修可能な主な専門的検査・治療

- 上部・下部消化管内視鏡検査
- 内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）
- 内視鏡的筋層切除術（POEM）
- 内視鏡的逆行性膵胆管造影（ERCP）
- 超音波内視鏡（EUS）、超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診（EUS-FNA）
- カプセル内視鏡
- 腹部エコー
- 腹部血管造影、経カテーテル的動脈化学塞栓術、B-RTO
- エコー下肝生検
- ラジオ波焼灼術（RFA）
- 経皮経肝胆道ドレナージ（PTCD）
- 化学療法
- 細胞・再生療法

研修期間 6年

募集人数 30名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 消化器内科 教授 寺井 崇二

指導医からのメッセージ

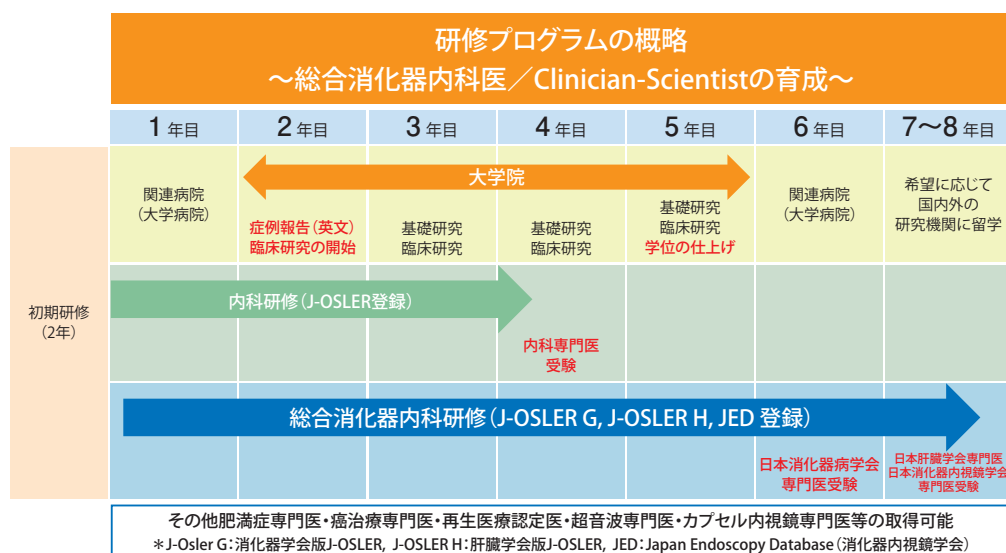
過去20年間の消化器内科分野における医療の進歩は著しく、1989年に見つかったC型肝炎ウイルスは、いまや内服薬だけでほぼ克服できる時代になりました。科学の進歩により、確実に医療が変わってきています。今後はさらに進歩が早くなりますので、柔軟に対応できる能力が必要とされます。さらに消化器内科で扱う疾患は、いわゆるcommon diseaseから難治性疾患まで幅広いため、基本的な診断・治療法の修得のみならず、専門的な知識と経験も必要です。当コースには、消化器病学会専門医21名、消化器内視鏡学会専門医20名、肝臓学会専門医14名を含む医師が専門的指導にあたっており、充実した指導体制が構築されています。また入院患者数は年間1,000例前後あり、豊富な診療経験を積むことができます。次世代の優れた医師を育成したいと考えていますので、興味のある方、待っています！

連携施設の病院名

燕労災病院 県立中央病院 十日町病院 魚沼基幹病院 吉田病院 がんセンター新潟病院 新発田病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 済生会新潟病院 済生会三条病院 上越総合病院 柏崎総合医療センター 長岡中央総合病院 三条総合病院 新潟医療センター 豊栄病院 村上総合病院 佐渡総合病院 立川総合病院 木戸病院 新潟臨港病院 日本歯科大学医科病院 新津医療センター病院 五泉中央病院 竹田総合病院 済生会川口総合病院 あがの市民病院 けいなん総合病院

研修コース

①基本コース



問い合わせ先

担当者 総括医長 水野 研一

TEL 025-227-2207

FAX 025-227-0776

E-mail sunship@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/in3/> <https://mn-career.jp/posts/57/> 【Medical Note Careerの教室紹介】

脳神経内科専門研修コース

■ 研修概要

私たちが目指すところ

私たちは、General Neurologistを育成するとともに、脳疾患研究を推進し、神経疾患の克服を目指します。

本コースの概要

神経内科は、問診と理学所見が重要で、最も総合的な診察能力を必要とされる内科です。本コースでは、総合内科専門医、神経内科専門医の資格取得を前提とした研修を実践することができます。内科系の総合的な臨床力を養いながら、神経内科専門医研修を行うことができるように配慮しています。

当科は、サブスペシャルティ重点として、初期研修終了直後の3（4）年目に、新潟大学医歯学総合病院（以下本院）で神経内科臨床の基礎を習得します。この間に神経生理検査、病理検査、画像診断学を学びます。4～5年目は、連携施設で神経内科救急を含む神経内科診療の実践的なトレーニングと内科研修を積みみます。初期研修中に回りきれなかった診療科についても、この間にローテーションし、総合内科専門医の資格取得のために必要な経験を積みみます。5～6年目は、再び本院でより専門的な神経内科臨床研修を行います。屋根瓦方式で初期研修医や医学生の教育にも関わることで、自身の臨床力の質を高めます。

総合内科専門医・神経内科専門医の資格取得後は、個々人の将来目標により様々な選択が可能です。大学院に進学し、神経疾患の基礎的、臨床的な研究を行うこともできますし、引き続き臨床力を高めることもできます。大学院での教育体制が、量、質ともに充実し、実績のある指導者のもとで研修できることも特徴です。

本院脳神経内科では、日本内科学会、日本神経学会および日本脳卒中学会の資格を有する指導医が、コースの指導に当たっています。さらに、25を超える連携施設において、神経内科専門医および指導医が熱心に指導に当たっています。

■ アピールポイント

- 神経内科の王道を体得できます
- 神経内科の近未来の治療も経験できます（治験）
- 国内のみならず、海外の教室とも議論できます

■ 特色

私たちの教室は日本で最も伝統のある神経内科の一つです。当教室は、新潟大学脳研究所に所属しますが、本研究所は、臨床神経科学部門（脳神経外科と脳神経内科）を持つ日本で唯一の研究所で、発足当初より脳神経疾患の克服を目標とした研究を行ってきました。本研究所には多数の臨床資産があり、それを求めて、広く国内外より研究者が集い、共同研究を推進しています。この特色を生かして、脳研究所の各分野との連携により、臨床神経学のみではなく、臨床での“気づき”を最先端の研究手法を駆使して深く掘り下げていくことができます。経験した症例や研究については積極的に国内、国際学会で発表し、国際紙へ論文投稿を行い、多くの医師、研究者との交流の中で臨床・研究の能力を高めていくことを推奨しています。

神経内科で扱う疾患は多様で、膠原病内科、整形外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、眼科などとの関わりも多くあります。新潟大学は、伝統的に、他の診療科との連携も良く、多角的な視点から総合的な臨床力を鍛えることができます。当教室は、急性期病院から慢性期病院まで数多くの教育病院と連携しています。それらの施設の経験豊かな指導医とともに、私たちは、これからの超高齢社会に求められる、総合性と専門性の調和を保ったGeneral Neurologistの育成に取り組んでいます。また、研究所の臨床神経科学部門として、基礎および臨床面でのリーダーを育てていくことを目標にしています。

研修期間 3年

募集人数 6名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 脳神経内科 教授 小野寺 理

指導医からのメッセージ

新潟大学脳神経内科の特色は、神経疾患の患者さんやご家族に長く寄り添えることにあります。数十年にわたり、病気の患者さん、ご家族と関わることができるのは、当教室の歴史と、県内に張り巡らされたネットワークの賜物です。これによって、今まで、様々な難病の原因を解明してきた実績があります。また、病理学教室との連携が深く、神経疾患に関する臨床病理カンファレンスを毎月開催しています。このような恵まれた環境の施設は、多くありません。専攻医は、神経内科の地域医療を支える経験豊かな指導医のもとで、急性期から慢性期、小児から高齢者まで総合的な臨床力を養うことができます。同時に、最先端の知識を得ることができ、研究や留学の体制も充実しています。また、女性医師も働きやすい環境を心がけています。個々人の将来目標やニーズに対応して、柔軟な研修プログラムが可能です。私たちは、臨床面でも、研究面でも、トップクラスの研修プログラムを提供しています。

■ 連携施設の病院名

西新潟中央病院 新潟病院 さいがた医療センター 燕労災病院 三之町病院 県立中央病院 十日町病院 新発田病院 新潟市民病院 がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院 済生会新潟病院 上越総合病院 長岡中央総合病院 新潟医療センター 佐渡総合病院 立川総合病院 小千谷さくら病院 木戸病院 信楽園病院 総合リハビリテーションセンター みどり病院 下越病院 新潟白根総合病院 脳神経センター阿賀野病院 秋田赤十字病院 竹田総合病院

■ 研修コース

①基本コース

		1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	7 年目	8 年目
A コース	初期研修 2 年間	ジュニア レジデント (本院)	連携施設	内科研修	連携施設 シニア レジデント (本院)	大学院			指導医
B コース		ジュニア レジデント (本院)	内科研修	連携施設 シニア レジデント (本院)	大学院			指導医	
C コース		内科研修	ジュニア レジデント (本院)	連携施設	連携施設 シニア レジデント (本院)	連携施設	大学院		
D コース		ジュニア レジデント (本院)	内科研修	内科研修	連携施設	大学院			指導医
E コース		内科・専門研修 神経内科・専門研修				大学院			指導医

▲ 総合内科専門医取得 ▲ 神経内科専門医取得

サブスペシャルティ重点コースとして、3年で総合内科専門医、4年で神経内科専門医取得を目指します。これらは案であり、研修先、コース設定に関して、個別に柔軟に対応していきます。

問い合わせ先

担当者 総括医長 石原 智彦

TEL 025-227-0665

E-mail ishihara@bri.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.bri.niigata-u.ac.jp/~neuroweb/>

腫瘍内科専門研修コース

■ 研修概要

本プログラムは、卒後臨床研修を終了した医師（以下、専科医）を対象として、がん薬物療法に関わる知識および技能を習得し、がん薬物療法専門医の資格を取得することを第一の目的としています。がん薬物療法は、5大がんを中心に固形腫瘍全般に加え、造血器腫瘍の経験も必要となるため、他診療科または他施設で研鑽を積むことを奨励します。

さらに、病院で実施されるカンサーボードに積極的に参加することで、腫瘍全般に関わる知識を深められます。最終的には、専門研修開始後5年をめぐり、がん薬物療法専門医資格の取得を目指します。また希望者には、大学院生として悪性腫瘍や分子標的治療薬に関する研究に取り組んでいただき、博士号を取得することができるように構成しています。なお本プログラムの大学院に関わる部分は、2017年度から開始された次世代東北がんプロ養成プランに基づいて実施されます。

■ 特色

腫瘍内科では、臓器別診療の枠を超えたがん薬物療法を実践できる腫瘍内科医を養成します。主として、消化器腫瘍、乳腺・内分泌腫瘍、呼吸器腫瘍、頭頸部腫瘍におけるがん薬物療法を学びますが、希少がんや造血器腫瘍など、その他の腫瘍についても幅広く経験できます。また、分子生物学の学習および研究を通して、進歩が著しい分子標的薬の臨床研究を行っています。本プログラムは東北がんプロフェッショナル養成推進プランの一環として運営するため、多彩な教員陣による講義等を受けることができます。

指導医からのメッセージ

「新潟から世界最良の医療を！」を合言葉に日々頑張っております。洋々たる未来をもった専攻医のお役に立てるようお手伝いいたします。

■ 連携施設の病院名

厚生連長岡中央総合病院 新潟県立十日町病院

研修期間 7年

募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 腫瘍内科 教授 西條 康夫

■ 研修コース

①基本コース

		1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目	7 年目
A コース	卒後臨床研修	腫瘍内科前期臨床研修 (新大病院)	研究専従(大学院) 主として基礎的研究		腫瘍内科後期研修 (新大病院)		腫瘍内科 (新大病院・関連病院) 海外留学	
B コース		腫瘍内科前期臨床研修 (新大病院・医員)			腫瘍内科後期研修 (関連病院)		腫瘍内科 (新大病院・関連病院) 海外留学	

問い合わせ先

担当者 総括医長 森山 雅人

TEL 025-368-9004

FAX 025-368-9005

E-mail oncology@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/onc/>

小児科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムでは、「小児医療の水準向上・進歩発展を図り、小児の健康増進および福祉の充実に寄与する優れた小児科専門医を育成する」ことを目的とし、一定の専門領域に偏ることなく、幅広く小児科の研修を行います。専攻医は「小児科医は子どもの総合医である」という基本的姿勢に基づいて3年間の研修を行い、「子どもの総合診療医」「育児・健康支援者」「子どもの代弁者」「学識・研究者」「医療のプロフェッショナル」の5つの資質を備えた小児科専門医となることを目指してまいります。

■ アピールポイント

- 症例数も指導医も充実しています。
- こどもの医療に携わる素晴らしさを実感できます。
- 各々の夢が実現できるよう最大限します。

■ 特色

①豊富な症例数、②豊富な小児科専門医育成実績（年平均7人以上）、③十分な指導体制に集約できます。各病院と新潟大学小児科の各専門領域（感染症、腎臓、血液・腫瘍、循環器、内分泌代謝、新生児、神経、救急、集中治療など）の医師との間には、顔が見える距離での緊密な連携が保たれており、'気になる'症例について、専攻医から各専門領域の医師に直接コンサルテーション（メールや電話）が日常的に行われております。当然、重症例や稀少疾患などの緊急の搬送もスムーズに行われていますので、十分なバックアップの下に患者の診療に取り組むことができます。このような連携は、小児を取り巻く医療提供体制が複雑な都市部では実現しにくいものであり、地方ならではの特筆すべき点です。特に新潟県はその規模が大きく、本プログラムでカバーする医療圏の人口はおよそ250万人（小児人口30万以上）ですので、専攻医数と比較すれば、十分な症例経験を積むことができます。



指導医からのメッセージ

小児科の初期研修で最も重要なのが、確実な問診と身体所見から鑑別診断をあげ、適切な検査を行い、診断し、そして治療につなげる、この1連の思考過程を多くの症例を通じて、繰り返しトレーニングすることです。本プログラムでは、小児科医は、子どもの総合医であることを前提に、上記の思考過程を基本とし、豊富な臨床経験を積むことが可能です。また、若手小児科医のためのBasic Core Lecture（年4回）などを通じ、最新の実践的な小児科診療に役立つ知識の習得が可能です。

■ 連携施設の病院名

県立中央病院 魚沼基幹病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 県立新発田病院 新潟市民病院 済生会新潟病院
鶴岡市立荘内病院 佐渡総合病院

研修期間 3年

募集人数 13名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 小児科 教授 齋藤 昭彦

■ 研修コース

①基本コース

研修期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設で小児科一般の研修 (NICUでの研修含む)											
2年目	連携施設または関連施設で小児科一般の研修 (NICUでの研修及び地域医療など) 専門医取得のための論文作成											
3年目	大学病院で総合小児科医としての研修6ヶ月 連携施設または関連施設での研修（成育医療研究センターでの救急研修も可）											

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土・日
～8:15	受持患者情報の把握、PALSのシミュレーション実習など					日当直業務 Basic Core Lecture (年4回) など
8:15～8:45	モーニング・カンファレンス (学生も交えたインタラクティブな症例検討、抄読会、専門医による講義)					
9:00～12:00	外来治療番・病棟業務。指導医と共に回診し、指導を受ける。					
12:00～13:00	昼食、ランチョンセミナー（不定期開催）					
13:00～17:15	外来治療番・病棟業務。診療班による検討会など			総合回診	病棟業務、 振り返り等	
17:15～	当直業務、自己研鑽（論文執筆、学会発表準備）など					

問い合わせ先

担当者 総括医長 今村 勝

TEL 025-227-2222

FAX 025-227-0778

E-mail mimamura@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ped/>

皮膚科専門研修プログラム

■ 研修概要

5年間の研修を終了し所定の試験に合格した段階で、皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として、医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

■ アピールポイント

- 定期的な教育講演など、充実した教育システム。
- 初診および専門外来において皮膚科全般の臨床スキルを獲得することができる。
- 大学院生にはトップジャーナルを目指せる研究の指導を行い、博士取得後は積極的に留学を推奨している。

■ 特色

新潟大学医歯学総合病院皮膚科では、専門外来として、乾癬外来、腫瘍外来、薬疹外来、リンパ腫外来、アトピー外来、皮膚膠原病外来、遺伝性皮膚疾患外来を設けており、外来患者数は1日平均110名、入院患者数は1日平均20名にのぼり、外来および入院患者の診療を通じて豊富な経験を積むことが可能である。また、年間手術件数は600件を超え、皮膚科医として必要な手術手技の習得が可能である。研究面では、皮膚免疫学、遺伝性皮膚疾患学などの研究グループを作り、多様な研究結果を創出している。さらに連携施設では、施設ごとの役割に応じて、急性期疾患や皮膚悪性腫瘍への対応、一般的な皮膚疾患に対する診断・治療スキルを研修期間を通して身につけていくことで、皮膚科医としての総合的な診療能力を培うことができる。

指導医からのメッセージ

皮膚科学は、皮膚に病変がある疾患全てを扱う、病変にもっとも直接的にアプローチし診断治療する総合臨床医学です。

新潟大学皮膚科教室は、皮膚科専門医を目指す研修医に対し、充実したレベルの高い研修医教育を提供できるよう、日々努力しています。皮膚科専門医としての基本姿勢ならびに皮膚科サイエンスを体現して欲しいと考えます。

是非当教室で充実した研修を受け、将来の新潟の医療の、皮膚科学の発展のためにともに頑張りましょう。

■ 連携施設の病院名

長岡赤十字病院 県立がんセンター新潟病院 魚沼基幹病院 県立新発田病院 済生会新潟病院 新潟医療センター 木戸病院 新潟市市民病院 県立中央病院

■ 研修コース

①基本コース

卒後臨床研修を修了して皮膚科の専門医を志す医師が、新潟大学医歯学総合病院皮膚科とその関連病院で専門研修を行う。全人的医療を実践するために、診療で遭遇する皮膚疾患およびその病態に適切に対応できる診療能力（態度、技能、知識）

研修期間 5年

募集人数 7名

選考方法 書類・面接・試験

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 皮膚科 教授 阿部 理一郎

を身につけ、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医を取得する。専門研修と生涯教育のために伝統ある日本皮膚科学会新潟地方会があり、学術環境も充実している。関連課題で学位を取得し、臨床応用や皮膚科学の発展への貢献も可能で、さらに海外施設への研究留学も盛んである。皮膚疾患は多彩で、患者数や他科からのコンサルトが非常に多く、皮膚科専門医としての役割は重要である。とくに新潟県下では皮膚科専門医の需要がきわめて大きい。

■ a コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
卒後臨床研修	皮膚科前期研修 皮膚科【医員】：1年間	基礎研究または臨床研究／基礎研究へ出向あるいは皮膚科：4年間 (基礎研究へ出向するか否かは本人の意向を考慮する。期間も本人と相談して決定する。) 【学位取得・大学院修了】 皮膚科中期研修／皮膚科：1～2年間				皮膚科後期研修／関連病院：1年間＋皮膚科【医員】：1年間／または関連病院：2年間（皮膚科専門医取得）／【指導医として研修医指導】	

■ b コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
卒後臨床研修	皮膚科前期・中期研修 皮膚科【医員】：2年間 あるいは皮膚科【医員】：1年間＋関連病院：1年間		基礎研究または臨床研究／基礎研究へ出向あるいは皮膚科：4年間 (基礎研究へ出向するか否かは本人の意向を考慮する。期間も本人と相談して決定する。) 【学位取得・大学院修了】			皮膚科後期研修／関連病院：1年間／【皮膚科専門医取得】／【指導医として研修医指導】	

■ c コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
卒後臨床研修	皮膚科前期研修 皮膚科【医員】：1年間	皮膚科中期研修 関連病院：1年間	皮膚科後期研修 および臨床研究 皮膚科【医員】：2年間 【大学院社会人入学】		皮膚科後期研修および臨床研修 関連病院：2年間 【学位取得・大学院修了】 【皮膚科専門医取得】		皮膚科研修／皮膚科【医員】：1年間 ／【指導医として研修医指導】

■ d コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	皮膚科前期研修 皮膚科【医員】：1年間	皮膚科中期研修 関連病院：1年間	皮膚科後期研修 皮膚科【医員】：2年間 あるいは皮膚科【医員】：1年間＋関連病院：1年間 【皮膚科専門医取得】		皮膚科研修 皮膚科【医員】：2年間 あるいは関連病院：2年間 【指導医として研修医指導】	

■ その他参考情報

専門研修プログラムの概略

皮膚科コースは原則として、皮膚科前期・中期・後期研修、および大学院医歯学総合研究科皮膚科学分野での研究期間に分けられる。

優秀な成績で皮膚科研修を修めた者は、6年目以降に所定の審査・試験を受けて、皮膚科専門医を取得できる。主な研修コースを図に示したが、各自の希望を考慮して、コースの変更も可能である。海外留学を希望する者には、留学の希望を最優先させている。皮膚科後期研修修了後（卒後10年目以降）は、大学病院皮膚科で後輩の指導と研究を行って皮膚科教員を目指す者と、関連病院で皮膚科指導医として研修医や後輩の指導にあたる者に分かれる。この選択は個人の将来構想による。現在、日本皮膚科学会認定皮膚科専門医の他に、各種専門指導医のサブスペシャルティコースが日本皮膚科学会で検討されている。平成20年度からは、皮膚悪性腫瘍指導専門医、美容皮膚科・レーザー指導専門医の専門医制度が導入された。

問い合わせ先

担当者 総括医長 林 良太

TEL 025-227-2282

FAX 025-227-0783

E-mail dermatol@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.niigata-derma.net/>

精神科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟大学医歯学総合病院を基幹施設とし、魚沼基幹病院、県立精神医療センター、県立新発田病院を連携施設とした研修施設群を構成する。専攻医は3年の研修期間内にこれらの施設をローテーションしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させる。

■ アピールポイント

- 多数の指導医、関連施設を擁し、専門分野ごとに柔軟な指導が可能
- 本人の希望に応じた研修スケジュールを組むことが可能
- 精神科領域の研究活動は全国でも上位

■ 特色

新潟大学医歯学総合病院の精神科は、大学病院精神科としては規模の大きい64床のベッドを有している。閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。

専攻医は看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせた最善の治療を行っていく。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。

また、魚沼基幹病院、新潟県立精神医療センターといった新潟県内の主要医療機関に加え、地域密着型の専門性に富んだ単科精神科病院を連携施設として有しており、これらの施設をローテーションしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医取得に臨むことが可能である。児童思春期や認知症、物質関連精神障害の専門医療機関、単科精神科病院と連携しているため、希望に応じてこれらの施設での研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能である。

指導医からのメッセージ

大学での研修は、うつ病や統合失調症など代表的な精神疾患のみならず、児童・思春期疾患、認知症なども研修することができます。国際診断システムを用いた精神科診断やエビデンスに基づいた薬物療法について一生懸命指導します。

また、精神科診断学、発達障害の病態研究、臨床薬理学研究、分子遺伝学研究などの研究も行っています。興味があればこれらの研究に触れることもできますし、学会に同行することもできます。

臨床、研究活動ともに、上級医と気楽にディスカッションの場をもてる雰囲気です。皆さんと共に勉強できる日を楽しみにしています。

■ 連携施設の病院名

魚沼基幹病院 新潟県立精神医療センター 新潟県立新発田病院 国立病院機構さいがた医療センター 南浜病院
田宮病院 河渡病院 三島病院 佐潟荘

研修期間 3年

募集人数 10名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 精神科 教授 染矢 俊幸

■ 研修コース

①基本コース

■ Aコース

1年目	2年目	3年目
大学	連携施設A群より1施設選択	大学 or 連携施設B群より選択(複数施設可)

■ Bコース

1年目	2年目	3年目
連携施設A群より1施設選択	大学	大学 or 連携施設B群より選択(複数施設可)

■ Cコース

1年目	2年目	3年目
大学	大学 or 連携施設B群より選択(複数施設可)	連携施設A群より1施設選択

連携施設A：魚沼基幹病院、県立精神医療センター、県立新発田病院

連携施設B：国立病院機構さいがた医療センター、南浜病院、田宮病院、河渡病院、三島病院、佐潟荘

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
8:30~9:00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス
9:00~12:00	外来予診	症例検討会 病棟回診	外来予診	外来予診	外来予診
13:00~17:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	グループ回診 カンファレンス	病棟業務
17:00~18:10		研修医セミナー			

問い合わせ先

担当者 新潟精神科専門医研修プログラム事務局 江川 純

TEL 025-227-2213 (2214)

E-mail jeg5414@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.niigata-dp.org>

外科専門研修プログラム

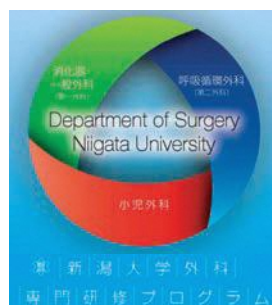
■ 研修概要

『外科領域のあらゆる分野の知識とスキルを習得した外科専門医を取得するためのプログラム』です。

- 初期研修修了後、専攻医として3年（以上）の専門研修を行います。
- 外科専門医はサブスペシャリティ（消化器外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、乳腺、内分泌外科等）の専門医取得に必要な基盤となる共通の資格です。

■ 特色

- ① 「Unter einem Dach：1つ屋根の下に」：新潟大学外科教室では、今回の制度が始まる以前から消化器、呼吸循環、小児外科領域について連携を取って研修を行ってきた実績があります。各領域における障壁のないスムーズな研修が行えます。
- ② 大学院（PhD）コース：専門医研修と併行して学位の取得が可能。卒業5年目の時点で『外科学会専門医』受験資格と『博士号』の取得を狙えます。将来の更なるステップアップのための最短コース!!
- ③ 豊富な症例、指導医：数多くの指導医の下、豊富な症例経験を積むことが可能です。若手は助手で我慢！などということはありません。積極的な参加を待ち望んでいます。
- ④ 研修施設を自分で選択することができる！：手術数の多いHigh volumeセンターを連携施設としています。各個人の希望に沿った研修プログラムと一緒に考えましょう。いつでも相談にのります。
- ⑤ 新潟医療人育成センター：シミュレーションセンター開設！スキルアップが図れます。
- ⑥ 同世代の研修医・若手医師が多い：同世代の同僚、先輩のアドバイスは心強い味方です。



指導医からのメッセージ

- 手術によって人命を救う外科医療は極めてやりがいのある仕事であると私は信じています。私はもう一度生まれ変わっても外科医になりたいと思っています。我々、外科教室は若者を大切に育てていきます。“気概のある諸君、来たれ、外科教室へ！”
(消化器・一般外科 教授 若井 俊文)
- 「和」を大切に、若い人がのびのびと、そして色々なことにチャレンジできる活気ある教室を目指しています。
(呼吸循環外科 教授 土田 正則)
- 「新潟から世界最良の医療を」を合言葉に日夜頑張っております。洋々たる未来をもった子供たちのお役に立てるのを楽しみにしています。

■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 長岡赤十字病院 県立中央病院 秋田厚生医療センター 鶴岡市立荘内病院 県立新発田病院 県立がんセンター 済生会新潟病院 長岡中央総合病院 立川総合病院 魚沼基幹病院 水戸済生会総合病院 十日町病院 上越総合病院 村上総合病院 佐渡総合病院 燕労災病院 柏崎総合医療センター 新潟臨港病院 新潟南病院 秋田大学 山形大学 富山大学 山梨大学 昭和大学北部 琉球大学

研修期間 3年

募集人数 17名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 消化器・一般外科 若井 俊文

■ 研修コース

①基本コース

モデルスケジュール：個別にアレンジ可能です。

■ 大学院（PhD）コース

1年目	2年目	3年目
大学（社会人枠 or 基礎）		S/A
S/A		大学
大学（社会人枠）	S/A	大学

■ 外科全領域コース

1年目	2年目	3年目
大学	A/S	A/S
A	S	大学
大学	A/S	A/S
		大学

■ 領域発展コース

1年目	2年目	3年目
大学	S	A
S	大学	A
		大学

全領域研修

サブスペシャルティ領域など専門研修

* S、A、B/C群から施設を選択

S：500例/年、かつ4領域
新潟市民病院
長岡赤十字病院
県立中央病院

A：500例/年
秋田厚生医療センター
鶴岡市立荘内病院
県立新発田病院
県立がんセンター
済生会新潟病院
長岡中央総合病院
立川総合病院
魚沼基幹病院
水戸済生会総合病院
十日町病院
上越総合病院

B：200～499例/年
C：199例以下/年
村上総合病院 B
佐渡総合病院 B
燕労災病院 B
柏崎総合医療センター B
糸魚川総合病院 B
新潟臨港病院 C
新潟南病院 C
小千谷総合病院 C

* 研修期間中にBまたはC施設での地域研修（必修）を含む

他大学連携施設：秋田大学、山形大学、富山大学、山梨大学、昭和大学北部、琉球大学

■ スケジュール例

専門研修1年目	基幹施設（新潟大学医歯学総合病院）または連携施設に所属し、研修を開始します。大学院（PhD）コース、外科全領域コース、領域発展コースのいずれにおいても下記の症例を担当してもらうことを目標とします。 ●一般外科／麻酔／救急／病理／消化器／心・血管／呼吸器／小児／乳腺・内分泌 ●経験症例200例以上（術者30例以上）
専門研修2年目	基幹施設（新潟大学医歯学総合病院）または連携施設に所属し、研修を行います。 ●一般外科／麻酔／救急／病理／消化器／心・血管／呼吸器／小児／乳腺・内分泌 ●経験症例350例以上／2年（術者120例以上／2年）
専門研修3年目	不足症例に関して各領域をローテートします。外科専門医達成項目を十分履修した専攻医においては、サブスペシャルティ領域の研修も開始可能です。大学院（PhD）コース履修者は、新潟大学医歯学総合病院で研究をまとめながらの研修も可能です。

問い合わせ先

TEL

消化器・一般外科 025-227-2228
呼吸循環外科 025-227-2243
小児外科 025-227-2258

E-mail

消化器・一般外科 su1admin@med.niigata-u.ac.jp
呼吸循環外科 su2sec@med.niigata-u.ac.jp
小児外科 pedsurg2@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ

消化器・一般外科 <http://www.med.niigata-u.ac.jp/su1/>
呼吸循環外科 <http://www.med.niigata-u.ac.jp/su2/>
小児外科 <http://www.med.niigata-u.ac.jp/psu/psu/Welcome.html>

消化器・一般外科／乳腺・内分泌外科専門研修コース

■ 研修概要

※当コースでは、外科専門医をすでに取得した者を対象として、サブスペシャルティ研修を行います。主に消化器外科学会専門医を目指すコースと乳腺外科専門医を目指すコースを用意しています。

当科の診療範囲は、食道・胃外科、大腸・肛門外科、肝臓・胆道・膵臓外科、移植外科、乳腺・内分泌外科など広範であり、外科全般の知識・技能を修得できることが当コースの強みとなっています。消化器外科領域の中でさらに専門性を高めてもらい、各領域の認定医・専門医・指導医を取得することが可能なコースになっています。内視鏡外科手術に興味がある人は内視鏡外科技術認定医を目指してもらい、消化器内科領域の勉強をしたい人は消化器病学会、消化器内視鏡学会専門医を取得することもできます。乳腺外科専門医を目指す方は、専門的に乳腺疾患に携わるコースも用意しておりますのでご希望があれば相談にのります。国内施設と連携をとり、移植外科医育成プログラムに参加しておりますので移植外科医を志す方にも対応しています。

近年のグローバル社会に対応するには、広い視野を持つことが重要と考えています。国内外を問わず、積極的に研修・留学をすすめています。教室として出来る限りのバックアップ体制をとり金銭面も含めたサポートを行っています。アメリカ（バッファロー、ニューヨーク、ボストン）、イギリス（ロンドン）、オランダ（アムステルダム）など国外有名施設への留学・研修をはじめ、国内の施設へも積極的に出向き、研鑽を積み、互いに切磋琢磨しています。

研修中、研修後の大学院進学も可能で、大学院卒業とともに学位が取得できるよう支援体制をつくっています。新潟県内に連携施設が多数あり、多様性のある研修が行えることも当コースの特徴です。

■ 特色

当コースにおける専門研修の特色は、①手術のレベルが高く、研修の質も高い、②マスターすべき手術手技を概ね定めており、一定レベルの手技習得を保証される、③研修病院が多く、多様な疾患、多数の手術を経験できる、④面倒見のよい先輩医師が揃っており、指導医層が充実している、⑤内視鏡外科学会技術認定医、日本肝胆膵高度技能専門医等の資格取得が可能、⑥臨床研修と併行して研究活動、学位取得が可能であること等です。

指導医からのメッセージ

一律の指導ではなく、個々の将来像にも対応した多様性のあるシステムになるよう常に考えています。「乳腺外科、移植外科に特化して研修したい」など希望がありましたらご相談ください。

手術によって人命を救う外科医療は極めてやりがいのある仕事であると私は信じています。私はもう一度生まれ変わっても外科医になりたいと思っています。我々、外科教室は若者を大切に育てていきます。“気概のある諸君、来たれ、外科教室へ！”
(消化器・一般外科 教授 若井 俊文)

■ 連携施設の病院名

村上総合病院 坂町病院 新発田病院 五泉中央病院 佐渡総合病院 がんセンター新潟病院 新潟市民病院 新潟臨港病院 日本歯科大学医科病院 信楽園病院 済生会新潟病院 新潟白根総合病院 吉田病院 済生会三条病院 三条総合病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 立川総合病院 燕労災病院 柏崎総合医療センター 県立中央病院 上越総合病院 魚沼基幹病院 あがの市民病院 新潟南病院 新潟医療センター 豊栄病院 加茂病院 魚沼病院 小千谷総合病院 亀田第一病院 津川病院 新津医療センター病院 柿崎病院 潟東けやき病院 岩室リハビリテーション病院 桑名病院 新潟万代病院 水戸済生会総合病院 秋田厚生医療センター 鶴岡市立荘内病院

研修期間 3～5年

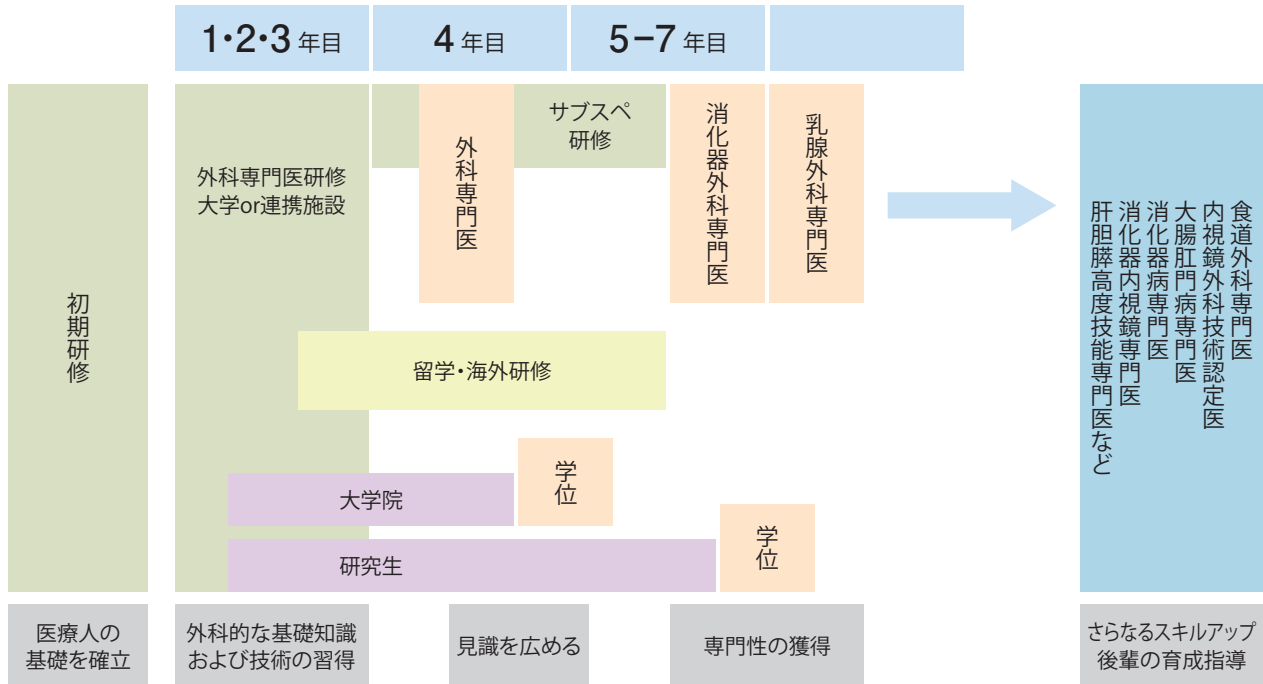
募集人数 15名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 消化器・一般外科 教授 若井 俊文

■ 研修コース

①基本コース



②サブスペシャリティ専門医取得要件の例（消化器外科専門医）

**外科・消化器外科で
4年以上の修練が必要**

300例 以上の手術経験

中・高難度の中から20例以上 計50例（術者）

筆頭論文1編を含む3編の論文発表

筆頭者として3件の研究発表

※2023年申請時より、本学会総会または大会での
筆頭者として研究発表1件が必須となります。

専門医取得要件の詳細は以下の学会ホームページをご参照ください

日本消化器外科学会： <https://www.jsogs.or.jp/>

日本乳癌学会： <http://jbcs.gr.jp/member/>

【術式規定】

食道癌の手術	3例
胃癌の手術	10例（術者5例以上を含む）
結腸癌の手術	10例（術者5例以上を含む）
直腸癌の手術	5例
膵頭十二指腸切除術	5例
肝切除術	5例
腹腔鏡下胆嚢摘出術	10例（術者5例以上を含む）
腸閉塞の手術	5例（術者3例以上を含む）
急性（汎発性）腹膜炎の手術	5例（術者3例以上を含む）

問い合わせ先

担当者 総括医長 市川 寛

TEL 025-227-2228

FAX 025-227-0779

E-mail su1admin@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/su1/>

心臓血管外科／呼吸器外科専門研修コース

■ 研修概要

心臓血管外科医を目指す研修医のために「新潟心臓血管外科修練ネットワーク」というコースを用意している。心臓血管外科手術例が多く、かつ、指導体制が整っている県内外の関連病院と大学病院が協力して研修を行うシステムである。専門医認定機構に認定されたプログラムにもとづき、外科専門医研修修了後3年で心臓血管外科専門医を取得できるコースである。ネットワークに属する病院は、新潟大学医歯学総合病院、新潟市民病院、立川総合病院、長岡赤十字病院、新潟県立新発田病院、新潟県立中央病院、水戸済生会総合病院である。成人心臓血管外科コースでは心臓胸部大血管疾患は元より、腹部大動脈から末梢の動脈疾患さらには静脈疾患に至るまで幅広い疾患を対象としている。このコースでは、心臓血管疾患全体に対して系統的で患者本位の対処法を実践できる専門医を養成することに力を入れている。

更に、小児心臓外科に関しては新潟大学医歯学総合病院において新生児の複雑心疾患から非チアノーゼ性先天性心疾患まで修練する。診断から治療戦略の確立、手術、周術期管理までを一貫して小児科と協力しながら修練し、より専門性を高める。

呼吸器外科医を目指す研修医のために「新潟呼吸器外科修練ネットワーク」というコースを用意している。呼吸器外科手術例が多く、かつ、指導体制が整っている県内の関連病院と大学病院が協力して研修を行うシステムである。専門医認定機構のプログラムにもとづき、外科専門医研修修了後3年で呼吸器外科専門医を取得できるコースである。ネットワークに属する病院は新潟大学医歯学総合病院、がんセンター新潟病院、西新潟中央病院、長岡赤十字病院、県立中央病院、県立新発田病院、魚沼基幹病院である。研修内容はプログラム委員会の討議にもとづき修練施設・レベルを設定し、到達度に応じて修練方法内容の修正を施行、更に専門領域での臨床研究能力の養成を心がけている。呼吸器外科の基本的手術に精通し、呼吸器疾患の適切な対応法を身につけることはもちろん、心臓血管外科の研修も行うため、胸部心臓血管外科全体に強い専門医を養成することに力を入れている。

■ アピールポイント

- 消化器外科、小児外科とも密に連携し、外科専門医に必要な手術経験を短期間で効率よく経験し、心臓血管外科/呼吸器外科サブスペシャルティコースに早期に移行することも可能である
- 手術症例が豊富であり、心臓血管外科/呼吸器外科専門医取得に必要な手術を短期間で経験することはもちろん、手術手技を向上する意味でも大きなメリットがある

■ 特色

専門研修は心臓血管外科と呼吸器外科とに分かれて行われる。プログラムにもとづき、外科専門医研修修了後3年で各専門医の到達目標を十二分にクリアできるコースを「新潟心臓血管外科修練ネットワーク」「新潟呼吸器外科修練ネットワーク」として用意している。プログラム委員会の討議にもとづき修練施設・レベルを設定し、到達度に応じて修練方法内容の修正を施行、更に専門領域での臨床研究能力の養成を心がけている。どちらの専門医をめざす場合でも、心臓血管外科・呼吸器外科の基本的手術に精通し、末梢動脈静脈への適切な対応法を身につけることで、胸部心臓血管外科全体に強い専門医を養成することに力を入れている。

心臓血管外科修練プログラム委員は白石修一、岡村竹司、三島健人（新潟大学医歯学総合病院）、青木賢治（新潟市民病院）、山本和男（立川総合病院）、菅原正明（長岡赤十字病院）、島田晃治（県立新発田病院）、名村理（県立中央病院）、倉岡節夫（水戸済生会総合病院）で構成されている。

呼吸器外科修練プログラム委員は土田正則、小池輝元（新潟大学医歯学総合病院）、青木正（県立がんセンター新潟病院）、渡辺健寛（西新潟中央病院）、篠原博彦（長岡赤十字病院）、斉藤正幸（県立中央病院）、北原哲彦（県立新発田病院）、橋本毅久（魚沼基幹病院）で構成されている。

研修期間 3年

募集人数 心臓血管外科 5名 呼吸器外科 5名

選考方法 面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 呼吸器外科 教授 土田 正則 心臓血管外科 科長 白石 修一

指導医からのメッセージ

成人心臓血管外科ではネットワーク全体で低侵襲手術を推進しています。とくに大学病院では症例が豊富なおうえ、シミュレータの活用など早期かつ短期間に技術を習得できる環境が整備されています。小児心臓外科は高難度手術を次々と成功させ、症例も増加するなど、充実した修練を行える環境にあります。呼吸器外科はどの施設でも手術が多く、短期間で技術を習得できます。大学病院では癌治療、肺移植の研究体制が整備されています。

■ 連携施設の病院名

心臓血管外科：県立中央病院 県立新発田病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 立川綜合病院 水戸済生会総合病院

呼吸器外科：西新潟中央病院 県立中央病院 がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院 県立新発田病院 魚沼基幹病院

■ 研修コース

①基本コース

	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	5 年目	6 年目
A コース	卒 後 臨 床 研 修	外科専門医研修 および胸部外科研修		心臓血管外科または呼吸器外科 専門医研修		
B コース		心臓血管外科または呼吸器外科専門医研修				
		外科専門医研修				

大学院での研究については個別に相談し専門研修中に実施可能
サブスペシャルティの実績カウントは3年目から可能(専門医機構)

問い合わせ先

担当者 総括医長 岡本 竹司

TEL 025-227-2243 **FAX** 025-227-0780

E-mail su2sec@med.niigata-u.ac.jp

小児外科専門研修コース

■ 研修概要

外科学会のサブスペシャリティ領域（小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科など）における専門医制度の方針が定まりました。小児外科においては、プログラム制（病院群を定め一定期間の研修で資格を取得できる制度）とカリキュラム制（従来のように期間を定めず必要な臨床カリキュラムの取得を行う制度）の並立ができます。カリキュラム制であっても、小児外科修練開始を宣言し、指導医が修練終了をデータベースに登録された症例はカウントすることができます。従って、小児外科に決めている場合は、卒後研修に小児外科研修を入ると専門医資格の取得が早くなります。卒後研修後の外科研修は3年が望ましいとされていますが、1年終了した段階で小児外科研修開始を宣言することができ、2-2-3制度（卒後研修2年、外科研修2年、サブスペシャリティ3年）を採用しているサブスペシャリティ領域もあります。外科専門医に必要な350例を経験した後にサブスペシャリティ領域に移行してゆくことも考えられています。未だ骨子が定まっただけの状態で今後の詳細は流動的で、メール等で疑問点はお尋ね下さい。

当小児外科では、生後まもない新生児の手術から15歳までの小児手術を行います。新生児外科は、食道閉鎖、十二指腸閉鎖、小腸閉鎖、鎖肛、Hirschsprung病などの消化器疾患から、先天性肺分画症、CCAM、横隔膜ヘルニア、腹壁破裂、臍帯ヘルニアなど呼吸器から体壁に及ぶ広い領域の手術をしています。また、悪性腫瘍として神経芽腫、腎芽腫、肝芽腫、横紋筋肉腫、奇形腫といった小児期独特の腫瘍の治療を小児科、整形外科、脳神経外科、放射線科などの先生方と専門的治療集団を作成し、新潟県内の症例を統一した治療方針で集学的治療を行っています。既に、Niigata Tumor Boardとして40年以上の歴史があります。また、小児外科領域においても内視鏡手術は不可欠で、現在では手術症例の三分の一に内視鏡が用いられ、整容性にも優れた低侵襲手術を心がけています。高頻度磁気刺激を用いた仙骨神経機能調節は、当科のオリジナルなプログラムで、排便機能障害や排尿機能障害に対する非侵襲的治療手技として、優れた効果を上げています。本年より新しい器械も導入され、外来レベルで多くの小児の治療を行っています。

■ 特色

小児外科学会では、年間手術症例100例に対し1名の研修生が適切と考えています。当科では毎年2名の研修が可能で、3年間の研修でカリキュラムを終了することができます。新生児は毎年15~20程度で、鼠径ヘルニア、停留精巣などの他に悪性腫瘍や胸部手術も多く、内視鏡手術も1/3の症例に用いています。3年の研修で主要な疾患を過不足無く経験できます。カリキュラム制のため、大学院進学や海外留学などを研修期間に適宜組み合わせる自由度もあります。

外科研修に必要な症例は術者として120例を含む350例で、大学病院では外科研修が効率よく行えるように消化器・一般外科、胸部呼吸器・血管外科と効率よく連携しています。これも大学研修の大きな利点です。

指導医からのメッセージ

新しい専門医制度の規範に沿って効率よく研修できる制度を構築しています。専門医取得は長い医師生活の一里塚です。教育と研究も早期から開始し、バランスのとれた小児外科医の養成を目指しています。

■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 県立中央病院 長岡赤十字病院 鶴岡市立荘内病院

研修期間 3年

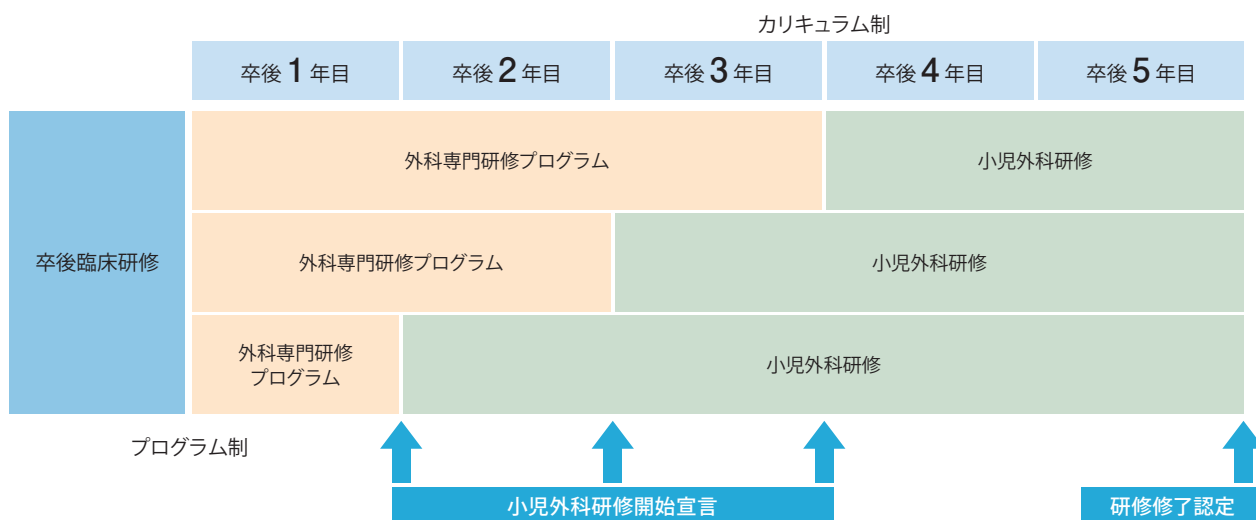
募集人数 3～4名

選考方法 面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 小児外科 教授 木下 義晶

■ 研修コース

①基本コース



*現時点での新専門医制度において、サブスペシャルティに関しては流動的なものであり、内容とは多少異なってくることもあります。

問い合わせ先

担当者 小児外科 総括医長 小林 隆

TEL 025-227-2258 FAX 025-227-0781

E-mail kobataka@med.niigata-u.ac.jp ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/psu/psu/Welcome.html>

整形外科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟大学医歯学総合病院は基幹施設として、県内外30の連携施設と共に本研修プログラムを構成します。運動器プロフェッショナルイズムの涵養により、人間性が豊かで全人的な医療と第一線の整形外科医療を実践でき、新潟県内のみならず国内全域や海外への飛躍をする整形外科専門医を育成することを目標としています。

■ アピールポイント

- 執刀医として多数の症例を経験できます。
- 最高の環境で経験豊富な指導医のもとで研修できます。
- あらゆる分野の研修が可能です。

■ 特色

本プログラムの特色は、何と言っても全国有数の臨床経験を積むことが可能な点です。実際、これまで当科にて研修した医師は、多くの連携施設で研修を行うことにより、専門医試験受験までに全員500件以上の執刀経験を積み、初期治療から最先端医療までの幅広い経験を積むことにより、頼もしい整形外科専門医へと成長しています。連携施設は、総合研修病院群、地域中核病院群、高度専門領域病院群、連携指定病院群に分け、大学病院を含む3～5施設での3年9か月の研修を行います。総合研修病院では、救急医療としての外傷に対する研修を中心に、サブスペシャリティに対しても経験豊富な指導医による研修を受けることができます。地域中核病院では、地域医療ならびに外傷に対する研修を幅広く受けることができます。高度専門領域病院では、それぞれ特化したサブスペシャリティに対する専門性の高い研修を受けることができます。全領域を満遍なく研修し、整形外科医としての総合力を身につけることを目的とした、総合領域コースのほか、各専門領域に重点をおいた研修を受けられるようにした専門重点コースや、専門研修終了後の大学院進学などを目指す研究重点コースなど多彩なプログラムを用意しています。



3D-CTによるTKA術前計画

指導医からのメッセージ

新潟大学整形外科学教室は1917年の開講以来100年を超える歴史ある教室です。県内外に多くの連携施設があり、多彩でかつ非常に多くの臨床症例の経験ができます。さらに多数の経験豊かな指導医のもと、整形外科すべての領域についての高度な研修をまんべんなく受けることができます。東京近郊など都市部の施設に比較すると忙しい勤務状態になりますが、その分豊富な臨床経験を積むことが可能です。みなさんの参加をお待ちしています。

■ 連携施設の病院名

【新潟県内】 新潟市民病院 県立十日町病院 西新潟中央病院 県立中央病院 新潟労災病院 新潟手の外科研究所 魚沼基幹病院 県立がんセンター 長岡赤十字病院 立川綜合病院 新潟臨港病院 済生会新潟病院 新潟医療センター 長岡中央綜合病院 新潟中央病院 下越病院 県立新発田病院 柏崎総合医療センター 佐渡綜合病院 新潟リハビリテーション病院 県立リウマチセンター 中条中央病院 亀田第一病院 三条綜合病院 県立燕労災病院

【新潟県外】 聖隷浜松病院（浜松市） 水戸済生会総合病院（水戸市） 鶴岡市立荘内病院（鶴岡市） 会津中央病院（会津若松市） 板橋中央総合病院（東京都） 新東京病院（松戸市） 千葉県こども病院（千葉市） 八尾徳洲会病院（八尾市）

研修期間 3年9か月

募集人数 18名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 整形外科 教授 川島 寛之

■ 研修コース

①基本コース

■ 大学1年コース〔総合領域コース〕

1年目	2年目	3年目	4年目
大学	総合研修病院①	総合研修病院②	地域中核病院

■ 大学半年コース〔専門重点コース〕

1年目	2年目	3年目	4年目
大学	総合研修病院	地域中核病院	高度専門領域病院

■ 大学2年コース〔研究重点コース〕

1年目	2年目	3年目	4年目
大学	総合研修病院	地域中核病院	大学

■ 地域枠医師コース

1年目	2年目	3年目	4年目
総合研修病院①	地域中核病院	総合研修病院②	大学

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
7:30～	術前検討	術後検討 教授回診	術前検討		術後検討 教授回診
9:00～	手術	外来/手術	手術	外来/手術	外来/手術
19:00～	診療班検討会 脊椎・脊髄（第2） 手（第3） 股（毎週） 膝・スポーツ（毎週） RA（不定期）	小児 （不定期）	医局会 抄読会 研究検討会 CPC など	診療班検討会 腫瘍（毎週）	

問い合わせ先

担当者 研修プログラム担当 川島 寛之

TEL 025-227-2272 FAX 025-227-0782

E-mail inskawa@med.niigata-u.ac.jp ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ort/>

産科婦人科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムでは新潟大学医歯学総合病院産婦人科を基幹施設とし、連携施設とともに研修施設群を形成して専攻医の指導にあたります。大学病院では婦人科悪性腫瘍および合併症妊娠や胎児疾患、産科救急などがメインとなる一方、大学病院では経験する事が少ない性感染症、骨盤臓器脱（性器脱）、避妊指導、モーニングアフターピルの処方と服薬指導などの習熟は連携施設がメインとなります。連携施設には得意とする産婦人科診療内容があり、基幹施設を中心として連携施設をローテートする事で生殖医療、婦人科腫瘍（類腫瘍を含む）、周産期、女性のヘルスケアの4領域を万遍なく研修する事が可能です。産婦人科専攻医の研修の順序、期間等については、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各施設の状況、地域の医療体制を勘案して、新潟大学産婦人科専門研修プログラム管理委員会にて決定されます。

■ アピールポイント

- 豊富な症例数
- 専門医取得に向けて熱心な指導体制でバックアップ
- 多岐にわたるサブスペシャリティ

■ 特色

新潟大学医歯学総合病院産婦人科のセールスポイントは、1）周産期医療と婦人科がん診療においては国立大学では全国トップクラスの症例の豊富さ、2）手術など技術の指導に熱心な指導体制、3）エビデンスを作るための臨床試験や治験への参加が多く、自然にEBMを身につけられる環境、です。後期研修4年目の秋に産婦人科専門医を取得することができ、さらに希望があればサブスペシャリティ〈周産期（母体・胎児）専門医、婦人科腫瘍専門医、生殖医療専門医、女性ヘルスケア専門医、臨床遺伝専門医、細胞診専門医、超音波専門医、婦人科内視鏡技術認定医など〉取得のための研修に移行可能です。また、大学院進学も積極的に支援しています。

指導医からのメッセージ

新潟大学医歯学総合病院産科婦人科は、年間分娩数が約450件、年間手術件数が産科婦人科併せて約500件であり、胎児疾患例、産褥出血、合併症妊娠、帝王切開術、婦人科悪性・良性腫瘍手術（とくに婦人科腹腔鏡手術）など、大学病院ならではの多彩で幅広い症例・手術を経験することができます。女性の一生涯を通じ、様々な場面で心身の健康を守っていけるような産婦人科医を目指して研修されることを期待します。

■ 連携施設の病院名

魚沼基幹病院 済生会新潟病院 県立がんセンター新潟病院 新潟市民病院 村上総合病院 県立新発田病院 済生会三条病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 立川総合病院 県立中央病院 上越総合病院 佐渡総合病院 鶴岡市立荘内病院 富山赤十字病院 済生会川口総合病院 聖隷浜松病院 柏崎総合医療センター

研修期間 3年

募集人数 15名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 産科婦人科 教授 榎本 隆之

■ 研修コース

①基本コース

1年目	基幹施設	→	連携施設
	産婦人科基礎：ハイリスク妊娠悪性腫瘍の経験 腹腔鏡助手 生殖医療経験		一般病院医療：妊娠分娩管理 高度生殖技術経験 悪性腫瘍の診断
2年目	連携施設		
	基礎から応用へ：ハイリスク妊娠分娩 悪性腫瘍の診断と治療 腹腔鏡助手から術者へ 一般生殖医療の実際		
3年目	連携施設		
	応用：母体搬送受け入れ ハイリスク妊娠分娩 悪性腫瘍の診断と治療 腹腔鏡手術術者 一般生殖医療の実際		

②週間スケジュールの例

		月	火	水	木	金
産科	午前	医局会議 ←	術前検討会 病棟	病棟・外来	医局検討会 手術 来	→
	午後	病棟 産科NICU 検討会	病棟・外来	病棟 手術	教授回診 手術	病棟
婦人科	午前	医局会議 病棟・手術	術前検討会 病棟・外来	病棟・外来 手術	医局検討会 病棟・外来	病棟 外来
	午後	病棟・手術 婦人科検討会	教授回診	病棟 手術	病棟 手術	病棟

問い合わせ先

担当者 総括医長 安達 聡介

TEL 025-227-2320

FAX 025-227-0789

E-mail sadachi@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://obs-niigata.jp>

眼科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟県（大学基幹）専門研修プログラムは、眼科学の進歩に対応した知識と技術をもつすぐれた眼科医を養成し、さらに生涯にわたる研鑽を積むことによって、国民医療に貢献する眼科専門医の育成を目的とします。本プログラムは新潟大学医歯学総合病院眼科を基幹施設とし、連携8施設と共に研修施設群を形成して専攻医を指導します。連携施設には、地域中核病院であるAグループと、地域医療を担うBグループがあり、それぞれの特徴を活かした眼科研修を行います。そこで研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験していただきます。

■ アピールポイント

- 診断から治療、手術までを一貫して行えます。
- 内科的治療から外科的治療まで広く選択できます。
- 赤ちゃんから、おじいちゃん、おばあちゃんまで診られます。

■ 特色

当プログラムは新潟県における唯一の眼科専門研修プログラムです。そのため県内の症例はすべて当プログラムの対象となり、このことは多様な症例を経験するために非常に有益です。またプログラム全体での手術件数は例年9,000件程度に及び、症例数も十分に確保されていますので、基幹施設および連携施設において到達目標を大きく上回る外来症例、手術件数を経験することができます。研修終了時には基本的疾患の治療に関して独り立ちしていることが可能となるカリキュラムです。

● 1年目

基幹施設の緑内障班、網膜・硝子体班、角膜・感染症班、斜視・弱視班、白内障班、神経眼科班、腫瘍・形成班全ての眼科診療グループにローテーションで配属されます。基幹施設は緑内障チューブシャント手術や角膜移植術といった専門的な疾患を多く担当し、また急性緑内障発作や視神経炎、網膜剥離などの眼科救急疾患に対応できる技術も習得でき、あわせて豚眼を用いた手術実習も行います。

● 2年目以降

基幹施設、もしくは連携施設（Aグループ、Bグループ）のいずれかで研修を行います。Aグループは都市の中核病院で症例数や疾患が豊富であり、特に硝子体手術や外眼部手術などの手技の習得が、Bグループでは特に地域に密着した白内障手術を含めた一般的な眼科医療の研修が可能です。基幹施設を選択すれば、眼科内のより専門領域に特化した研修が可能です。大学院進学も積極的に支援しています。

● 5年目（卒後7年目）

専門医認定試験

★地域枠学生の対応

県費修学生などの地域枠からの医師の受け入れ経験があり、ほぼ同様のプログラムを施行可能です。

指導医からのメッセージ

眼科は局所的な診療科ではありますが、外界からのほとんどの情報の入り口である眼を守るという非常に重要な医療を担います。診療班は細分化されており、眼科内においてもいろいろな疾患を経験することができます。ぜひ眼科のスペシャリストを目指して下さい。



研修期間 4年

募集人数 6名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 眼科 教授 福地 健郎

■ 連携施設の病院名

[A] 新潟市民病院 済生会新潟病院 長岡赤十字病院

[B] 新潟県立がんセンター新潟病院 長岡中央病院 魚沼基幹病院 佐渡総合病院 新潟南病院

■ 研修コース

①基本コース

■ 例1

1年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
2年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
3年目	Aグループにて研修
4年目	Bグループにて研修
5年目	Bグループの病院にて勤務 専門医認定試験受験 ◎認定

■ 例2

1年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
2年目	Aグループにて研修
3年目	Bグループにて研修
4年目	Aグループにて研修
5年目	新潟大学医歯学総合病院にて勤務 専門医認定試験受験 ◎認定

■ 例3

1年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
2年目	Aグループにて研修、並行して 新潟大学大学院に進学（社会人大学院）
3年目	Bグループにて研修
4年目	新潟大学医歯学総合病院にて研修
5年目	新潟大学医歯学総合病院にて勤務 専門医認定試験受験 ◎認定

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前 (9時～12時)	病棟診察、外来	病棟診察、外来	病棟診察、手術	病棟診察、外来	病棟診察、手術
午後 (13時～17時)	病棟業務、手術	手術、専門外来	手術	病棟業務、専門外来	手術
夜 (18時～)	網膜班回診		全体回診、症例検討会、 リサーチミーティング		

問い合わせ先

担当者 総括医長 桐野 哲哉

TEL 025-227-2296

FAX 025-227-0785

E-mail togacchi@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/oph/ophthal.html>

耳鼻咽喉科・頭頸部外科専門研修プログラム

■ 研修概要

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、視覚以外の感覚、すなわち聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚というQOLに直結した感覚器、そして呼吸、嚥下といった生命にとって重要な器官を対象としています。小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、外科的側面とともに内科的側面も併せ持っています。そのため多くの社会的ニーズがあり、新潟県においても耳鼻咽喉科医師数は適正数には足りていません。本プログラムでは社会が要望するしっかりとした臨床医、耳鼻咽喉科医を育成すること、さらにグローバルな医療の進歩に寄与するために、学会発表や論文作成に関する指導、個人のスキルアップ、キャリアアップを支援し、科学者としての能力を習得することも目標としています。手術支援機器の発展に伴い誰もが安全に高度な手術が行えるようになっており、特に手先の器用さなどは要求されていません。また、当科は体力的に負荷が多い診療ばかりではなく、女性にとって働きやすい診療科です。出産、育児を行いながら医師としてのキャリアを続行できるよう女性医師支援にも力を入れており、実際に多くの女性医師が活躍しています。

■ アピールポイント

- フレンドリーなスタッフによる親切丁寧な指導で、早期から執刀経験が積めます。
- 共働き女性医師への手厚い支援が浸透しています。
- 臨床研究や論文作成指導も充実しています。

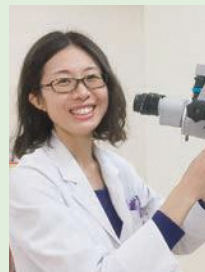
■ 特色

新潟大学医歯学総合病院は耳科手術の件数、成績とも全国でもトップクラスです。頭頸部癌に関しては、がん研究会有明病院へ国内留学、研鑽を積んだ頭頸部がん専門医による高度な指導による研修が可能です。その他、全体、各グループの症例検討カンファレンス、夏季解剖セミナーを通して、解剖、手術手技の習得ができます。地域中核病院群は、いずれも複数の医師が在籍する大規模病院であり、多くの症例、手術数があり、救急疾患も豊富です。本プログラムでは、他にはない充実した研修ができると確信しています。

先輩医師からのメッセージ

私は、平成21年に新潟大学を卒業後、臨床研修を経て平成23年に入局しました。学生実習の頃から医局の先生方の明るく指導熱心な雰囲気になじめ、耳科学領域の手術に興味を持ち、迷わず入局をしてから、かれこれ8年が経ちますが、この科に入って良かったなと日々感じながら、楽しく働いております。子供が2人おり、途中お休みをいただいたり、勤務形態をかえたりする場面もありましたが、キャリアが継続できる体制を医局が快く整えてくれました。一人一人を大切にしてくれる、そんな環境で、是非一緒に働いてみませんか？

(新潟大学医歯学総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 八木 千裕)



■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 新潟県立がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院 立川綜合病院 長岡中央綜合病院 新潟県立中央病院
新潟県立新発田病院 魚沼基幹病院 日本歯科大学新潟病院 JA新潟厚生連小千谷総合病院

研修期間 4年

募集人数 8名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授 堀井 新

■ 研修コース

①基本コース

■ 臨床・大学コース

1年目	新潟大学医歯学総合病院
2年目	地域中核病院
3年目	地域中核病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院

■耳鼻咽喉科・頭頸部外科の研修コースは主に3つに分かれています。

臨床・大学コースは4年目に大学へ戻るコースで、2年間地域中核病院で一般臨床を学んだ後に再度大学で高度な診療を学べるコースです。

臨床・地域コースは地域中核病院（前ページ連携施設参照）を先行して研修するコースで、一般臨床の診療技術を早く身に付けるのに最適なコースです。地域枠出身者にも対応しています。

途中で別のコースへ変更することも可能です。

大学院進学コースは4年目に大学院1年目を履修するコースで、学位取得を目指すには最短、最適なコースです。

■ 臨床・地域コース

1年目	地域中核病院
2年目	地域中核病院
3年目	新潟大学医歯学総合病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院

■ 大学院進学コース

1年目	新潟大学医歯学総合病院
2年目	地域中核病院
3年目	地域中核病院
4年目	新潟大学医歯学総合病院（社会人大学院）

②週間スケジュールの例

■ 大学における週間スケジュール例

	月	火	水	木	金
午前	手術	外来 病棟業務	手術	外来 病棟業務	外来 病棟業務
午後	手術		手術	病棟回診 医局会 抄読会	

問い合わせ先

担当者 准教授 高橋 邦行

TEL 025-227-2306

FAX 025-227-0786

E-mail kuniyuki@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/oto/>

泌尿器科専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟大学泌尿器科専門研修プログラムは基幹施設である新潟大学医歯学総合病院を中心とした診療拠点病院（A群11病院）と、島嶼を含む地域完結型医療を担う地方中核病院（B群9病院）、外来診療を中心とする地域実地医療を実践する協力病院（C群11病院）の3群から構成されます。泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行える能力を身につけることが可能です。学術的涵養を目指す大学院進学コース、より高い臨床実施能力の獲得を目指す臨床修練コース、新潟大学医学部地域医療枠の義務年限を前提とした地域医療枠コースの3つを用意しました。いずれのコースでも、研修期間中に国内・海外学会に積極的に参加し、泌尿器科疾患の最新の知見'cutting edge'に触れてもらいます。

■ アピールポイント

- DaVinci・腹腔鏡手術をはじめとする豊富な症例経験
- 腫瘍・移植・小児・排尿障害・結石治療まですべてをカバー
- 大学院・留学など研究も含めた多彩なキャリアパス

■ 特色

基幹施設である新潟大学では、泌尿器悪性腫瘍に対する拡大手術、腹腔鏡による低侵襲手術、Da Vinciロボット支援前立腺全摘術、ロボット支援腎部分切除術、分子標的治療、慢性腎不全に対する腎移植、小児泌尿器科疾患に対する尿路形成術などに加え、免疫チェックポイント治療薬等最新の薬剤の開発治験に触れることができ、泌尿器科領域の最先端医療の研修が可能です。

連携施設においても尿路結石症に対する内視鏡手術、前立腺肥大症に対するレーザー前立腺核出術などで国内有数の実績を上げている施設がある一方、多くの施設で地域医療に密着し、幅広く一般泌尿器科疾患を扱うため、泌尿器科専門医として必要な知識・技術をまんべんなく習得することが可能です。



Da Vinciロボット支援前立腺全摘術



脳死献腎移植手術

指導医からのメッセージ

4年間で腫瘍・移植・小児泌尿器科の最先端医療から結石、排尿障害、女性泌尿器科に至るまで泌尿器科学全般をまんべんなく学べます。プログラム全体で年間6,000件超の手術件数は全国でも有数です。国内学会・国際学会、研究会への出席の機会も豊富に用意し、大学院進学、臨床修練、地域医療枠など多彩なプログラムで専門医取得後のさらに未来のキャリアパスを見据えた充実した専門研修が可能です。

研修期間 4年

募集人数 6名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科 教授 富田 善彦

■ 連携施設の病院名

県立新潟田病院 村上総合病院 県立がんセンター新潟病院 新潟市民病院 新潟医療センター 済生会新潟病院 県立吉田病院 新潟南病院 木戸病院 済生会三条病院 長岡中央総合病院 長岡赤十字病院 立川総合病院 柏崎医療センター 魚沼基幹病院 新潟労災病院 県立中央病院 佐渡総合病院

■ 研修コース

①基本コース

■ 大学院進学コース

	専門研修プログラム						
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目
卒後臨床研修	新潟大学病院	連携病院	連携病院	大学病院	大学病院	大学病院	大学病院
				大学院1	大学院2	大学院3	大学院4

■ 臨床修練コース

	専門研修プログラム			
	1年目	2年目	3年目	4年目
卒後臨床研修	新潟大学病院	連携病院	連携病院	大学病院

専門医取得

学位取得

■ 地域医療枠コース

	専門研修プログラム					
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	地域医療義務	地域医療義務	大学病院	大学病院	連携病院	連携病院

専門医取得

専門医取得

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	手術ビデオ カンファレンス 手術	ジャーナルクラブ 抄読会 教授回診 外来診療	手術	抄読会 病棟回診 外来診療	腎移植 カンファレンス 教授回診 手術
午後	手術	病棟診療 手術 病棟回診 術前検討	手術 がんサージ	病棟診療 術前術後 症例検討会	手術

問い合わせ先

担当者 准教授 齋藤 和英

TEL 025-227-2289

FAX 025-227-0784

E-mail kazuaito@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/uro/index.html>

脳神経外科専門研修プログラム

■ 研修概要

研修プログラムは、その基幹施設である新潟大学医歯学総合病院を中心に、連携施設・関連施設として県内外の28の拠点病院から構成され、プログラム全体での年間手術総数は4,500件を超えます。近隣の県の主要病院も関連病院に含まれ、専門医を取得するまでに脳神経外科疾患に対する幅広い、十分な知識、経験、診療技術を習得することが可能です。

1年目（医師3年目）は新潟大学医歯学総合病院の病棟担当医として、複数の疾患を年間通じて受け持ちながら、神経診断学、神経解剖学、画像診断学、神経病理診断学の基礎を身につけます。特殊な専門領域疾患を経験することで、様々な治療方針の考え方や術前術後の管理法を学びます。

2～4年目（医師4年目～6年目）には関連基幹病院に勤務し、頭部外傷や脳血管障害などの急性疾患を経験し、専門施設での症例経験を含め、第一線の脳神経外科に必須の手術手技を習得します。大学院進学希望者は、3～4年目より入学可能です。



■ アピールポイント

- 県内外の基幹病院で多くの症例を経験しながら専門医への研修が可能です。
- 多くの専門医・技術認定医を取得可能な体制が整っています。
- 臨床技能の取得と基礎研究の両立が可能です。

■ 特色

新潟大学脳研究所脳神経外科学分野は、「我が国の脳神経外科の父」と称される中田瑞穂先生が、日本で最初の脳神経外科独立講座として1953年に開設され、これまで脳腫瘍、脳血管障害、頭部外傷、機能外科といった分野の診療・研究において日本をリードしてきました。全国の脳神経外科教室の中でも、脳研究所という神経研究を専門とした基礎医学教室と自由に連携が取れる環境で臨床・研究に当たることができることは大きな特色です。

指導医からのメッセージ

指導医から修練医までハードワークをスローガンに2016年春から脳神経外科の専門性の高い手術に医局スタッフが幅広く対応できるように医局内のシステムを改変し、非常に活気のある医局です。一緒に楽しくハードワークしましょう。

■ 連携施設の病院名

竹田総合病院 富山県立中央病院 長岡赤十字病院 長野赤十字病院 新潟労災病院 山形県立中央病院 新潟市民病院 新潟県立中央病院 新潟脳外科病院 桑名病院 三之町病院 長岡中央総合病院 佐渡総合病院 信楽園病院 燕労災病院 立川総合病院 新潟県立新発田病院 村上総合病院 秋田赤十字病院 西新潟中央病院 魚沼基幹病院

関連施設： 国立循環器病研究センター 県立がんセンター新潟病院 柏崎総合医療センター 北日本脳神経外科病院 諏訪湖畔病院 千曲中央病院 新潟医療センター

研修期間 4年

募集人数 7名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 新潟大学脳研究所脳神経外科 教授 藤井 幸彦

■ 研修コース

①基本コース

■ 専門医取得優先コース

1年目	2年目	3年目	4年目
新潟大学	関連基幹病院	関連基幹病院	関連基幹病院

* 初期研修2年終了後、脳神経外科学会入会4年終了後専門医試験受験可能

* 脳神経外科専門医取得後に、大学院進学可能

■ 大学院優先コース

1年目	2年目	3年目	4年目
新潟大学	関連基幹病院	新潟大学	新潟大学

大学院入学

新潟大学	関連基幹病院	関連基幹病院	新潟大学
------	--------	--------	------

大学院入学

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
Morning	週間Meeting 病棟報告 学生紹介（隔週）	術後報告 1	IVR検討	術後報告 2	
AM	外来/病棟	手術	外来/病棟 （血管内）	手術	手術
PM	（外来）	手術	（外来） 血管内	手術	（手術）
Evening	教授回診 症例検討 術前検討	手術	症例検討 術前検討	手術	病棟総括
After			医局会		

問い合わせ先

担当者 総括医長 岡田 正康

TEL 025-227-0652

FAX 025-227-0892

E-mail masayasu_okd@bri.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://neurosurg-bri-niigata.jp>

放射線科専門研修プログラム

■ 研修概要

実臨床における放射線科の役割は、超音波検査、X線撮影やCT、核磁気共鳴検査（MRI）および核医学検査などを利用する画像診断、画像診断を応用した低侵襲性治療（インターベンショナルラジオロジー:IVR）、および放射線を使用して種々の疾患の放射線治療を行うことにあります。

放射線科領域専門制度では、放射線診断専門医または放射線治療専門医の育成の前段階として、放射線診断専門医および放射線治療専門医のいずれにも求められる放射線科全般に及ぶ知識と経験を一定レベル以上に有する「放射線科専門医」を育成することを目的としています。

「放射線科専門医」取得後は「放射線診断専門医」または「放射線治療専門医」を目指すことになります（放射線診断専門医、放射線治療専門医は現在学会認定ですが、今後機構認定への移行が予定されています）。本プログラムでは、目標症例数の到達を前提に、希望に応じて早期から方向性を決めて、専門重点コースに移行することも可能です。また、社会人大学院生となり、研修をしながら医学博士を目指すこともできます（臨床業務を行わない場合は研修期間の延長が必要になる見込みです）。

■ アピールポイント

- 研修期間中に偏りのない豊富な症例を経験できます。
- 早期から診療・研究・教育業務を習得することができます。
- 十分な研鑽の上放射線治療・診断を選択することができます。

■ 特色

本プログラムに参加している施設はすべて新潟県内の中核病院であり、研修に必要な機器が整備されています。各施設で指導にあたる放射線科医は全員が新潟大学放射線科での勤務経験があり、施設間の情報交換が円滑に行われています。長年、医学生の実習、放射線科専門医の育成、さらには研究会の開催なども共同で行っており、本プログラムでもそれらの経験を踏まえ十分な体制を整備しました。後輩教育はもちろんのこと生涯に渡る自己教育の気風にあふれた新潟県下の放射線科医一同で皆さんをお迎えいたします。



指導医からのメッセージ

放射線科は放射線治療と放射線診断からなり、その魅力は守備範囲の広さと奥深さ、そして先端技術を駆使した多彩なモダリティにあります。全身に及ぶ解剖や疾患の知識を習得して日進月歩の診療機器・技術についていくのは簡単ではありませんが、チーム医療の要となる画像診断やがん治療のスペシャリストとして、放射線科医に対する期待と需要は、年々高まるばかりです。少しでも興味があれば是非一度見学に来てください。

■ 連携施設の病院名

県立がんセンター新潟病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 県立新発田病院 県立中央病院

研修期間 3年

募集人数 10名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 放射線診断科 教授 石川 浩志

■ 研修コース

①基本コース

■ 放射線科専門医→放射線治療専門医コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	大学病院医員1年 連携施設1年		大学病院医員または連携施設勤務（放射線治療）			
				放射線科 専門医受験		放射線治療 専門医受験

■ 放射線科専門医→放射線治療専門医+医学博士取得コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	大学病院医員1年 連携施設1年		大学院入学	臨床業務兼任（放射線治療）		医学博士取得
				放射線科 専門医受験		放射線治療 専門医受験

■ 放射線科専門医→放射線診断専門医コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	大学病院医員1年 連携施設1年		大学病院医員または連携施設勤務（放射線診断）			
				放射線科 専門医受験		放射線診断 専門医受験

■ 放射線科専門医→放射線診断専門医+医学博士取得コース

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目
卒後臨床研修	大学病院医員1年 連携施設1年		大学院入学	臨床業務兼任（放射線診断）		医学博士取得
				放射線科 専門医受験		放射線診断 専門医受験

②週間スケジュールの例

■ 週間スケジュールパターン予定（1年目）

		月	火	水	木	金
診断	午前	外来	核医学	MRI	CT	US
	午後	CT 呼吸器疾患 カンファレンス	MRI	CT 診断カンファレンス カンサーボード	連携施設で超音波検査	CT
診断 IVR	午前	外来	連携施設で消化管造影	MRI	US	IVR
	午後	CT 呼吸器疾患カンファレンス	MRI	CT 診断カンファレンス IVR術前カンファレンス カンサーボード	IVR	MRI
診断 IVR	午前	消化管造影	PET検査	MRI	核医学	MRI
	午後	CT 呼吸器疾患カンファレンス	PET検査	CT 診断・IVR術前カンファレンス カンサーボード	IVR	まとめ（指導医）
治療	午前	症例検討会 病棟診察、外来	症例検討会 病棟診察、外来新患	リサーチミーティング 病棟診察、外来新患	症例検討会 病棟診察、外来	症例検討会 病棟診察、外来新患
	午後	放射線治療計画	放射線治療計画	入院患者検討病棟教授回診 カンサーボード	密封小線源治療	放射線治療計画

※放射線治療とIVRは実際にはそれぞれ時期をまとめて研修します。

問い合わせ先

担当者 総括医長 海津 元樹

TEL 025-227-2315

FAX 025-227-0788

E-mail nradio@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/rad/>

麻酔科専門研修プログラム

■ 研修概要

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。新潟大学医歯学総合病院麻酔科専門研修プログラムは、新潟市民病院、新潟県立がんセンター新潟病院、新潟県立新発田病院、済生会新潟病院、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、新潟県立中央病院、魚沼基幹病院から構成される。本プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専門医教育を提供するとともに、3万例近い豊富な麻酔科管理症例のもと、高いレベルの臨床技術と専門知識を提供することができる。

本研修プログラム全体における2019年度合計麻酔科管理症例数：29,554症例

本研修プログラム全体における総指導医数：47人

	合計症例数
小児（6歳未満）の麻酔	1,161
帝王切開術の麻酔	1,042
心臓血管手術の麻酔	888
胸部外科手術の麻酔	1,383
脳神経外科手術の麻酔	730

■ 特色

全国的に見ても症例数が非常に豊富なプログラムであるため、専攻医全員が偏りのない麻酔管理を経験することができる。特に超音波ガイド下神経ブロックおよび中心静脈穿刺、経食道心エコー（成人、小児）、誘発電位測定に関しては、優れた指導医が在籍している。加えて、疼痛学、神経科学に精通した指導医も多く在籍しているため、臨床麻酔を背景にもった基礎研究に早期から触れ、それらの基本的な知識について学習・指導を受ける機会がある。



指導医からのメッセージ

麻酔科というと、とても狭い分野だと思いませんか？ しかし麻酔科の仕事には、呼吸・循環生理学、神経科学、疼痛学、薬理学などの幅広い知識と、外科系全科で行われる手術への理解が必要です。つまり「縦糸に横糸を通す」ように、特定の臓器にとらわれることなく、全身管理の基礎を学ぶことができます。新潟大学麻酔科は、皆さんを「一人前の麻酔科医」に育てるべく、厳しくも暖かい指導・教育を施すことをお約束いたします。

■ 連携施設の病院名

県立新発田病院 県立がんセンター新潟病院 済生会新潟病院 新潟市民病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 県立中央病院 魚沼基幹病院

研修期間 4年

募集人数 10名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 麻酔科 教授 馬場 洋

■ 研修コース

①基本コース

	A (標準)	B (ペイン)	C (集中治療)
初年度前期	新潟大学	新潟大学	新潟大学
初年度後期	新潟大学 (ペイン含む)	新潟大学 (ペイン含む)	新潟大学 (ペイン含む)
2年度前期	新潟県立中央病院	新潟市民病院 (ペイン重点)	新潟大学 (集中治療)
2年度後期	新潟県立中央病院	新潟市民病院 (ペイン重点)	新潟市民病院
3年度前期	長岡赤十字病院	新発田病院 (ペイン重点)	新潟市民病院
3年度後期	長岡赤十字病院	新発田病院 (ペイン重点)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度前期	新潟大学	新潟大学 (ペイン、緩和)	新発田病院 (集中治療含む)
4年度後期	新潟大学	新潟大学 (ペイン、緩和)	新潟大学 (集中治療)

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金	土・日
午前	泌尿器・婦人科 手術の麻酔	脳外科 手術の麻酔	整形外科 手術の麻酔	小児外科・ 消化器外科 手術の麻酔	呼吸器外科 手術の麻酔	休み (術前術後回診、 当直など)
午後						
当直		残り番		当直		

※当直明けの日は、臨床業務は原則免除になります。

問い合わせ先

担当者 総括医長 出口 浩之

TEL 025-227-2328 FAX 025-227-0790

E-mail masui@med.niigata-u.ac.jp ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ane/>

病理専門研修プログラム

■ 研修概要

新潟大学を基幹施設とする病理専門研修プログラムは、豊富な指導教員・指導医による充実した指導と多臓器の多彩な症例を経験することにより、安定して確実な診断を行える技能を習得できます。一人の専攻医を常に複数の指導医が指導・評価を行うことにより、専攻医の技能習得状況を正確に把握しながら、適切な症例数を偏りのない内容で提供することが可能で、各専攻医を信頼に足る病理専門医に確実に育てます。

■ アピールポイント

- 過去約40年間に診断した症例を保管・管理しており、学習や研究に適した環境が整っています。
- 一般病理診断医が知っておくべき疾患の標本と肉眼写真のライブラリーがあり、診断力の向上の助けになります。

■ 特色

本専門研修プログラムでは、研修専門施設群で年間130例以上の剖検数、80,000件以上の組織診断、2,500件以上の迅速診、100,000以上の細胞診があるため、病理専門医受験に必要な症例数は余裕を持って経験することが可能です。解剖症例に関しては、経験症例数の少ない専攻医に優先的に割り当てており、基幹施設以外にも解剖を経験できる連携病院が多数あり、十分な症例数を用意できます。疾患の内容としても、複数の大学病院や隣県の中核病院と連携し、かつ県内各地域の中核病院など多くの病院と連携することで豊富な症例を経験できる環境が整っています。専攻医の年次や習得状況に応じてこれらの病院の中から適切な環境の病院に派遣することにより、基幹施設である新潟大学では十分に経験できない領域の症例の経験を積むことが可能です。更に、新潟大学の特色の一つとして附属脳研究所がありますが、脳研究所神経病理学分野と密な連携も組んでおり、豊富な脳神経系疾患症例を経験することができます。



研究検討会

指導医からのメッセージ

病理医は、臓器・組織・細胞レベルで患者さんと向き合い、診断・治療に貢献します。他の臨床科と違って全臓器を対象にしており、とてもやり甲斐があります。正常および病的な状態を顕微鏡的に評価しますが、学生時代に顕微鏡が苦手だった方も全然問題ありません。少しでも興味のある方は、末尾の「問合せ先」へ気軽に連絡ください。お待ちしております。

■ 連携施設の病院名

群馬大学医学部附属病院 東京慈恵会医科大学附属病院 新潟市民病院 県立がんセンター新潟病院 長岡赤十字病院 立川総合病院 済生会新潟病院 聖隷浜松病院 県立中央病院 鶴岡市立荘内病院 長岡中央総合病院 新発田病院 魚沼基幹病院 新潟医療センター 新潟労災病院 信楽園病院 燕労災病院 下越病院 あがの市民病院 済生会三条病院 県立吉田病院 五泉中央病院 日本歯科大学医科病院 西新潟中央病院 小千谷総合病院

研修期間 3年

募集人数 4名

選考方法 書類

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 病理部長 味岡 洋一

■ 研修コース

①基本コース

コース		1年目	2年目	3年目
基幹施設主体		新潟大学*		
基幹・連携施設 ローテート	a	新潟大学*		連携施設**
	b	新潟大学*	連携施設**	新潟大学*
	c	新潟大学*	連携施設**	
	d	新潟大学	連携施設	新潟大学
連携施設主体		連携施設**		

●新潟大学*：週1回の連携施設での研修も可

●連携施設**：週1回は新潟大学で研修

●ローテートd：新潟大学、連携施設それぞれフルタイム

いずれのコースでも大学院生（社会人大学院生）との重複可

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
午前	外科切除例肉眼所見会		研究検討会・ 病理診断カンファレンス 等		外科切除例肉眼所見会
			外科切除例肉眼所見会		
	病理検体切り出し（ローテーション）				
午後	肝生検講習会	細胞診カンファレンス	消化器病理カンファレンス	婦人科病理カンファレンス	剖検例検討会
	病理一次診断（ローテーション）＋指導医による診断検閲				

問い合わせ先

担当者 総括医長 谷 優佑

TEL 025-227-2096

FAX 025-227-0760

E-mail tani@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/pa1/index.html>

臨床検査専門研修プログラム

■ 研修概要

1. 理念と使命

理念：臨床検査はEvidence Based Medicineにおける客観的な指標として、診療に欠かせないものである。臨床検査全般において、その品質の向上と維持に努め、適切かつ信頼性の高いサービスを通して患者診療に貢献する専門医が臨床検査専門医である。臨床検査専門医数は全国的に明らかに不足しており、その普及は急務である。当プログラムでは、大学附属病院における（i）高度かつ先進的な医療（ii）学生および後進の教育（iii）研究を通して、幅広く深い知識や技能と偏りが無い人間性・高い倫理観をもって、臨床検査の専門家としてチーム医療に参画することができる人材の育成を理念とする。

使命：理念に基づき、臨床検査に関する卓越した知識や技能をもって、的確な臨床検査が遂行されるように検査室の管理・運営をすること、臨床検査値を適切に判読・解釈することでチーム医療に参画し、病院機能の向上を図る。常に研鑽し自らの臨床検査医としての能力を高め続けることで、臨床検査全体の水準をも高めて、国民の健康・福祉に貢献する。

2. 研修の到達目標と方法

専門研修の3年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と、日本臨床検査医学会が定める「臨床検査専門研修カリキュラム」（日本臨床検査医学会HP参照）に基づいて臨床検査専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、各分野研修終了の終わりに到達度を評価します。

3. 専門研修後の医師像（大学院進学・subspecialty領域への継続等）

- ① 大学病院もしくはそれに相当する病院の検査医：病院検査部の管理と検査判読、コンサルテーション対応に加え、研究や専攻医・医学部学生の教育を実践します。
- ② ①以外の一般病院の検査医：病院検査部の管理と検査判読、コンサルテーション対応を実践します。
- ③ 大手検査センター：全般的な指導や特定の検査判定業務を行ったり、健診業務を実践します。
- ④ 地域医療における内科および臨床検査領域の診療医（かかりつけ医）：稀ですが、OB・OGの中には、内科クリニックを開業し臨床検査医学の知識・経験を生かして、より的確な検査の選択や少ない検査情報からより多くの情報を読み取る検査医の特性を生かした診療を実践している方々がいます。
- ⑤ 臨床検査専門医（基本領域）のsubspecialty領域としては、まだ決定はしていませんが、候補としては超音波専門医、臨床遺伝専門医、人間ドック専門医など推定されています。

4. 臨床検査専門研修プログラムについて

本研修プログラムの基幹施設は順天堂大学医学部附属順天堂医院となっております。研修内容によって、基幹施設または連携施設での研修となります。相談の上、新潟での研修を主としたコースを考慮します。

■ アピールポイント

連携施設となっておりますが、新潟大学での研修を主としたコースも考慮します。

■ 特色

臨床検査専門医になるには、以下7分野（①臨床検査医学総論、②一般臨床検査学・臨床化学、③臨床血液学、④臨床微生物学、⑤臨床免疫学・輸血学、⑥遺伝子関連検査学、⑦臨床生理学）をすべて習得する必要があります。これらを偏りなく習得するために、以下の連携施設と専門研修施設群を形成しています。それぞれ違った特徴をもつ検査部を有する施設で臨床経験を積むことにより、様々な環境に対応できる臨床検査専門医が育成される体制を整えています。

もう一つの大きな特徴としては、臨床検査は入院患者を担当することがない分野である特性上、育児・介護・通院など種々の理由により常勤として勤務が困難な場合でも、週2-3日勤務で、研修期間を3年から5年に延長するなどの対応により研修を行うことが可能です。更に、通常この新専門医制度では2017年度の募集対象者は2015年4月に初期研修を開

研修期間 3年 募集人数 2名 選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 消化器内科 教授 寺井 崇二

始した研修医ですが、臨床検査領域では、初期研修終了後すぐでなく卒後かなり年数を経た方も対象とすることが認められています。

また、大学院進学も積極的に推奨しており、研修2年目以降からは、研究との臨床検査専門医資格取得が両立できるよう、プログラムを適切に調整できるように個別に対応致します。

■ 連携施設の病院名

基幹施設：順天堂大学医学部附属順天堂医院

連携施設：A：順天堂大学医学部附属浦安病院

B：順天堂大学医学部附属練馬病院

C：順天堂大学医学部附属順天堂東京江東高齢者医療センター病院

D：新潟大学医歯学総合病院

■ 研修コース

①基本コース

臨床検査専門研修基本スケジュール												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	基幹施設 (または新潟大学) (臨床血液学)				基幹施設 (臨床検査医学総論)			基幹施設 (または新潟大学) (臨床微生物学)		基幹施設 (または新潟大学) (救急迅速検査 他)		
2年目	基幹施設 または新潟大学) (臨床化学)			基幹施設 (または新潟大学) (微生物学)			基幹施設 (または新潟大学) (一般臨床検査学)			基幹施設 (または新潟大学) (臨床生理学)		
3年目	基幹施設 (または新潟大学) (臨床免疫学・輸血学)						基幹施設 (または新潟大学) (遺伝子関連検査学)			予備 (症例不足分野 等)		
必修 プログラム要件	医療安全セミナー、感染対策セミナーの年2回の受講。											
3年間 共通研修	指導医の指導のもとで、 ①臨床検査の報告書を作成する。 ②施設内各種医療職や外部ネットワークからのコンサルテーションに対応する。											
地域医療の経験	種々団体が開催する臨床検査啓発事業に5回/3年以上参加・協力する。											
学術活動	臨床検査医学に関する論文報告（原著、症例報告など）を、筆頭者1編を含む3編/3年以上。											
ローテーションについて	各7分野の研修期間は本人の進捗状況により担当指導医と相談し多少前後する可能性があります。 基幹施設（順天堂医院）では1年以上の研修が必須です。 基本的に連携施設はすべて、ある時点の施設あたりの受け入れ専攻医数は1名です。そのため、専攻医が複数の場合は、連携施設での研修時期が重ならないようローテーションを組みます。 大学院やそれ以外で研究を並行して行うのは可能で、原則として2年目以降から研究を開始します。2年目以降のスケジュールは研究に応じて調整します。											
その他	原則3年間で修了するスケジュールですが、様々なライフイベント（妊娠・出産・子育て、介護、病気、他科専門医としての診療など）により常勤での研修が不可能な場合でも、週1-3日の5年間の研修など、個々に対応した研修スケジュールを組むことができる。											

問い合わせ先

担当者 検査部長 寺井 崇二

TEL 025-227-2185

FAX 025-227-0774

E-mail terais@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.nuh.niigata-u.ac.jp/department/center01.php>

救急科専門研修プログラム

■ 研修概要

「救急科専門医」は、急病、外傷、中毒など疾病の種類に拘らず、速やかに受け入れて初期診療に当たり、迅速かつ安全に診断と治療を行う基本領域の専門医であり、重症度に加えて緊急度も優先することが特徴です。本研修プログラムは新潟大学高次救命災害治療センターを基盤として県内すべての救命救急センターと連携し、3年間の専門研修により、良質で安心な標準的医療を提供できる救急科専門医をより多く養成することを目的としています。さらに新潟大学高次救命災害治療センターには集中治療部・ドクターヘリ基地も併設しており、初期診療から集中治療まで一貫した急性期医療の研修を行うことが可能で、併せて「集中治療専門医」「フライトドクター指導医」などの取得が可能です

■ アピールポイント

- 高度救命救急センター（全国41施設のみ）で研修が可能です。
- 県内すべての救命救急センターで研修が可能です。
- ドクターカーやドクターヘリの研修が可能です。

■ 特色

- (1) 集中治療部を附設した日本海側で唯一の高度救命救急センターにおいて、初期診療から集中治療まで一貫した急性期医療の研修が可能です。
- (2) 新潟県内すべての救命救急センターを中心に構成されたプログラムで、謂わば「オール新潟による救急科専門医養成プログラム」です。更に横浜市立大学高度救命救急センター、東京医科大学救命救急センターをはじめとした全国各地での研修も可能です。
- (3) 新潟大学・長岡赤十字病院ではドクターヘリ、新潟市民病院ではドクターカー事業での研修を行うことができます。
- (4) 新潟大学医歯学総合病院を基幹施設とし、病院の臨床研究サポート部門、医学部基礎系講座等の連携により、リサーチマインドを有する専門医の養成が可能です。さらに、専門医研修中の大学院進学も可能です。



指導医からのメッセージ

救急医学は“医の原点”であり、今後の超高齢化社会においても必須の領域です。救急医学の守備範囲は、災害医療、被ばく医療などの非日常的な医療に加え、ドクターカーやドクターヘリを用いた病院前医療、救急外来（ER）での初期医療、そして集中治療室での重症患者管理と多岐に渡ります。また、年間に国民20人に1人が要請する救急車での医療の質を担保するメディカルコントロール（MC）も重要な任務となっています。新潟県内には6救命救急センターがありますが、いずれも救急科専門医が不足しています。本プログラムでは、各専攻医の目指すキャリアパスに対応出来るように、県内の全救命救急センターを連携施設とし、オーダーメイドな研修を可能としました。



（西山 慶）

■ 連携施設の病院名

基幹施設連携：横浜市立大学高度救命救急センター 東京医科大学救命救急センター 新潟市民病院救命救急センター

連携：県立新発田病院救命救急センター 長岡赤十字病院救命救急センター 魚沼基幹病院救命救急センター 県立中央病院救命救急センター 上越総合病院

研修期間 3年

募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 高度救命災害治療センター・集中治療部 副部長 新田 正和

■ 研修コース

①基本コース

■ 基本コース

(1) 救急科領域専門研修カリキュラムに沿って、15領域において、専門知識・技能、経験すべき症例・病態、経験すべき診察・検査、経験すべき手術・処置を研修します。

(2) 具体的には、①～⑥の6基本研修モジュールを基本として、研修期間の3年間で必須116例、選択121例以上の研修を行います（右表を参照）。

(3) 専攻医が選択して、基幹施設で1年間以上、連携施設で3ヶ月～1年の研修を行います。

■ 年次毎の研修計画（例）

年次	基本研修モジュール	研修期間
1年目	①基本的診療能力（コアコンピテンシー）	通年
	②救急外来（ER）における知識と技能	3ヶ月～1年
	③入院患者管理と集中治療における知識と技能	3ヶ月～1年
	④手術・内視鏡検査・IVRにおける知識と技能	3ヶ月～1年
	⑤ドクターカー・ヘリと災害医療における知識と技能	3ヶ月～1年
	救急科領域専門研修カリキュラム（目標：必須25例・選択50例以上の登録）	
2年目	①基本的診療能力（コアコンピテンシー）	通年
	②救急外来（ER）における知識と技能	3ヶ月～1年
	③入院患者管理と集中治療における知識と技能	3ヶ月～1年
	④手術・内視鏡検査・IVRにおける知識と技能	3ヶ月～1年
	⑥他科研修（選択）	3ヶ月
	地域医療・地域連携研修（必須）	最低3ヶ月（3年間）
3年目	①基本的診療能力（コアコンピテンシー）	通年
	②救急外来（ER）における知識と技能	3ヶ月～1年
	③入院患者管理と集中治療における知識と技能	3ヶ月～1年
	⑤ドクターカー・ヘリと災害医療における知識と技能	3ヶ月～1年
	救急科領域専門研修カリキュラム（必須計116例・選択計121例以上の登録）	

②週間スケジュールの例

■ 週間スケジュール例（基幹施設）

時間	月	火	水	木	金	土	日			
8時	ER症例・救命救急センター・ICU・病棟患者報告（8：30～9：30） 救命救急センター・ICU回診（9：30～10：30） 他職種合同カンファレンス（10：30～11：00）									
9時						ER症例・救命救急センター・ICU・病棟患者報告 （救命救急センター・ICU回診）				
10時						診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）				
11時	診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）									
12時	診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）									
13時	診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）	診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）	病棟回診	ハンズオンセミナー・レクチャー	診療 （ER・救命救急センター・ICU）					
14時										
15時			診療 （ER・救命救急センター・ICU・病棟）							
16時										
17時	救命救急センター・ICU患者報告（当直医への引継ぎ）（担当者のみ）									
18時	抄読会 症例検討会 （隔週交互）				死亡症例検討会 （1回/月）					
19時										

ハンズオンセミナー・レクチャーは週に2回程度、基本モジュールの内容を中心に実施します。

問い合わせ先

担当者 総括医長 新田 正和（集中治療部 副部長）

TEL 025-227-2338

FAX 025-227-0791

E-mail masakazunitta@gmail.com

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/ecu/>

形成外科専門研修プログラム

■ 研修概要

形成外科学とは、先天性あるいは後天性に生じた変形・組織欠損や機能障害に対して主に外科的手技を駆使することにより、形態および機能を回復させ患者のQuality of Lifeの向上に貢献する外科系専門分野です。また、再建手術、先天異常、難治性潰瘍等、複数科でのチーム医療に形成外科医が参加する機会も増加しています。本プログラムは医師として必要な基本的診断能力と形成外科領域の専門的能力、社会性、倫理性を備えた形成外科専門医を育成することを目的としています。

■ 特色

県内より多数・多彩な症例が集まる新潟大学医歯学総合病院では複数科での再建外科、マイクロサージャリー、唇裂・口蓋裂、小耳症などの先天異常、手外科、熱傷、様々な外傷等、多彩で豊富な症例を経験することができます。大学病院のみでは件数が不足しがちな皮膚外科や難治性潰瘍、瘢痕・ケロイド、眼瞼下垂等の症例経験は連携施設にて数多く学ぶことができます。新潟大学グループには募集定員に対して多くの指導医が在籍しており、研修期間のうちに形成外科医としての優れた専門的能力を身につけることが可能な充実した指導体制が整っています。皆さんの応募、参加を心よりお待ちしております。



マイクロサージャリーを用いた再建手術

指導医からのメッセージ

形成外科の守備範囲は頭頂から足まで、全身に及びます。あらゆる部位で様々な原因によって失われた組織を再建し、あるべき「かたち」をつくることは患者さんの人生を守り、時に人生を劇的に変えます。また、形成外科医は様々な科との連携を通して医師をも助けることができます。Creativeな仕事ができる科です。当プログラムでは県内唯一の大学病院、そして中核病院にて多彩な症例をバランスよく経験できます。指導医一同、皆様の参加を心よりお待ちしております。

■ 連携施設の病院名

新潟市民病院 新潟中央病院 県立中央病院 長岡赤十字病院 新潟医療センター 県立がんセンター新潟病院 長岡中央総合病院 大阪大学医学部附属病院 大阪労災形成外科 大阪警察病院 大阪急性期・総合医療センター 地域医療機能推進機構大阪病院 大阪みなと中央病院 箕面市立病院 地方独立行政法人りんくう総合医療センター 大阪国際がんセンター 大阪母子医療センター 兵庫県立こども病院

研修期間 4年

募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 形成外科 教授 松田 健

■ 研修コース

①基本コース

研修期間	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	新潟大学形成外科											
2年目	新潟県立中央病院形成外科											
3年目	長岡赤十字病院形成外科											
4年目	長岡赤十字病院地域医療研修			新潟大学形成外科								

②週間スケジュールの例

	月	火	水	木	金
	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後
一般外来		○		○	
特殊外来（再建外科）		○		○	
特殊外来（唇顎口蓋裂・小耳症）				○	
特殊外来（乳房再建）		○		○	
特殊外来（顎顔面外科）		○		○	
特殊外来（レーザー）		○		○	
特殊外来（リンパ浮腫）		○		○	
手術	○ ○		○ ○		○ ○
病棟回診			○		
医局カンファランス			○		

問い合わせ先

担当者 総括医長 曾束 洋平

TEL 025-227-2592 FAX 025-227-0795

E-mail sotsu@med.niigata-u.ac.jp ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/prs/site/index.html>

リハビリテーション科専門研修プログラム

■ 研修概要

本プログラムは新潟県で唯一のプログラムであり、新潟大学を中心として、新潟県内の研修施設を広く網羅している。1年目は基幹研修施設である新潟大学医歯学総合病院、2年目は回復期リハビリテーション病棟で主治医となる研修施設で薬物療法、患者・家人へのインフォームドコンセント等を主体的に行い、3年目は小児疾患、地域医療、神経筋疾患、電気生理学的検査などを各施設で研修する。各施設の勤務は半年から1年を基本としているが、症例の偏りが無いように、専攻医の希望も考慮して決めることができる。

■ アピールポイント

- 多くの関連施設があり、希望にあった研修を受けられる
- 新潟大学のみ関連施設・医師のため、連携が取りやすい
- 新潟市に集中しており、距離的に通いやすい

■ 特色

本プログラムは関連施設がすべて新潟大学関連であり、指導医同士が顔見知りのため、症例が減少している切断等の症例があった場合の連絡を取り合うことで、臨機応変に症例を経験出来る特色を持っている。また、悠遊健康村病院、県立リウマチセンターと南魚沼市民病院以外はすべて、新潟市に位置しており、通いで研修も受けやすいなどの地理的なメリットもある。

指導医からのメッセージ

関連研修施設には、回復期病床をもつリハビリテーション専門病院・総合病院、脊髄損傷・切断・摂食嚥下・小児など専門性の高い研修を行うことができるリハビリテーション専門病院、肢体不自由児施設等が幅広く揃っています。このため研修プログラムの3年間で、大学病院における急性期リハビリテーション、回復期病棟における回復期リハビリテーション、専門性のあるリハビリテーション等の研修が3本柱になっています。また関連施設では維持期（生活期）のリハビリテーション、訪問診療などを経験することができます。

■ 連携施設の病院名

〈連携施設〉

下越病院 新潟リハビリテーション病院 悠遊健康村病院 新潟県立リウマチセンター 亀田第一病院 桑名病院

〈関連施設〉

押木内科神経内科医院 国立病院機構西新潟中央病院 南魚沼市民病院

研修期間 3年

募集人数 4名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 リハビリテーション科 木村 慎二

■ 研修コース

①基本コース

研修期間		研修施設
1年目	通年～半年	基幹研修施設 新潟大学医歯学総合病院（急性期疾患一般、小児整形）
2年目	通年	連携施設 下越病院（回復期） 新潟リハビリテーション病院（回復期） 悠遊健康村病院（回復期）
3年目	各施設 3か月～1年	連携施設 下越病院 新潟リハビリテーション病院 悠遊健康村病院 新潟県立リウマチセンター（回復期、リウマチ性疾患） 亀田第一病院（電気生理学的評価等） 桑名病院（回復期、脳卒中） 関連施設 押木内科神経内科医院（訪問診療・リハ、神経難病） 国立病院機構西新潟中央病院（神経小児科） 南魚沼市民病院（一般急性期）

②週間スケジュールの例

基幹施設（新潟大学医歯学総合病院）

		月	火	水	木	金
8:30	整形外科（PT, OTと共に）					
8:35	モーニングカンファ					
	嚥下ミーティング（ST, リハ医, 歯科医）					
8:45	新患紹介、ミーティング					
8:50	療法士毎のミーティング					
14:00	ケースカンファレンス					
	呼吸リハリハ外来					
14:30	抄読会					
15:00	神内カンファ					
16:00	ハンドミーティング（3週）					
16:30	呼吸リハミーティング					
16:00	摂食嚥下合同カンファ					

連携施設A（下越病院）

		月	火	水	木	金
8:30	医局朝会					
9:00	病棟回診					
9:00	外来診療					
	入院患者（新患）診察					
10:00	補装具診					
	ボツリヌス治療					
13:00	病棟カンファ					
13:30	VF/VE					
14:00	外来診療					
15:00	リハ栄養カンファ					
15:30	病棟リハカンファ					
16:30	外来リハカンファ					

院内全体で、NST回診、食のサポートチーム会議あり。
関連老人保健施設の回診、嚥下評価、関連通所リハ施設でカンファあり。

問い合わせ先

担当者 病院教授 木村 慎二

TEL 025-227-0308

FAX 025-227-2743

E-mail skimura@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/reh/rehabilitation/>

総合診療専門研修プログラム

より良い総合診療専門研修プログラムを行っていただくために、令和4年度より「4年研修プログラム」の申請を検討しております。
研修概要や特色、施設は大きくは変わりませんがご注意ください。

■ 研修概要

総合診療専門医は、大学病院を含む地域の総合病院・中核病院や診療所・在宅診療において全人的な医療を行い、かつ、住民・行政・多職種と連携し「地域を診る医師」としても活躍が期待されています。この大きな期待に応えるために、あらゆる場面で活躍できるように、新潟大学医歯学総合病院を中心として、新潟県内の各医療施設と連携して家庭医療専門医を育成するプログラムです。

総合診療専門研修は、総合診療専門研修Ⅰ＋総合診療専門研修Ⅱ、必修研修（内科研修、救急科研修、小児科研修）、選択研修で構成されています。それぞれの研修は各連携施設において研修手帳をもとに行われ、総合診療医に必要なスキル
①：医療機関内の研修だけでなく、出向く医療・集める医療、包括ケアの場への参加、地域コミュニティへの参加、行政機関との連携を通して「患者をみる、家族をみる、地域をみる」スキル ②：臓器別によらない入院患者の診療、病院内外からのコンサルトへの対応、初診患者の診療を通して「病院総合診療医（hospitalist）としてのスキル」を磨くことを目標としています。

■ アピールポイント

当プログラムはコンダクター施設としてのプログラムのため、基本的には大学病院以外の協力型病院で研修を行います。

■ 特色

新潟県という多様な風土・地理関係を実感できるプログラムで、4つのコース－SNOW－があります。また、どのコースでも総合診療専門研修で求められている「へき地・離島での医療」の経験が少なくとも1年以上可能です。

S : Sado course

内科研修を佐渡総合病院で、総合診療専門研修Ⅰを両津病院で行うコースです。

N : Niigata course

自治医科大学卒業、新潟県人卒卒業、新潟県県費就学卒業の専攻医のためのコースです。

O : Original course

専攻医自らが研修施設を設定していくコースです。

W (U+U) : Uonuma course 1/Uonuma course 2

全ての研修を魚沼地域、南魚沼地域で行うコースで、専攻1年目の内科研修を魚沼基幹病院で行うコースと十日町病院で行うコースの2つがあります。在宅医療から高度救急医療までの全てを地域の繋がりの中で研修することが可能です。

指導医からのメッセージ

総合診療専門医は「general mind」を持ち、患者さんと家族だけでなくコミュニティから地域までを幅広く診ることができる専門医です。新潟県のように高齢化、医師不足、広い地域（離島まである）という特色を持った医療圏では、活躍の場は多種多様で一筋縄ではいきません。だからこそ「プライマリ診療のスキル」と「地域をみる目」、「hospitalistとして病院総合診療医のスキル」を身につけて一緒に新潟県を笑顔にしてみませんか。（できれば、初期臨床研修中に外科研修を経験しておきましょう）

研修期間 4年

募集人数 2名

選考方法 書類・面接

プログラム責任者 新潟大学医歯学総合病院 医科総合診療部 准教授 長谷川 隆志

■ 連携施設の病院名

〈連携予定施設〉

以下の研修連携施設で、総合診療専門研修Ⅰ、総合診療専門研修Ⅱ、内科研修、小児科研修、救急研修、その他分野研修を行います。

詳細は令和4年度版のプログラムをご参照ください。

あがの市民病院 下越病院 柿崎病院 小出病院 済生会三条病院 坂町病院 津川病院 新潟南病院 松代病院
妙高病院 湯沢町保健医療センター 両津病院 魚沼基幹病院 糸魚川総合病院 県立中央病院 新発田病院
上越総合病院 十日町病院 長岡赤十字病院 長岡中央総合病院 新潟市民病院 村上総合病院 柏崎総合医療センター
※救急研修（3か月）は、新潟大学医歯学総合病院もしくは魚沼基幹病院での研修となります。
※新発田病院、県立中央病院で内科研修を行えるのは自治医科卒の専攻医に限ります。

■ 研修コース

- ・当プログラム研修は4年間（48か月）です。
- ・プログラム期間中に以下の①～⑥の研修を行います。研修時期は専攻医と指導医、連携施設と相談し決定します。
 - ①総合診療研修Ⅰ（12か月）
 - ②総合診療研修Ⅱ（12か月）
 - ③内科研修（12か月）
 - ④小児科研修（3か月）
 - ⑤救急科研修（3か月）
 - ⑥選択研修（6か月）
- ※選択研修は、「その他分野」の研修のほか、総合診療研修Ⅰ、Ⅱの研修も可能です。
- ・プライマリ・ケア連合学会の家庭医療専門医研修と同時研修が可能なプログラムになっております。

■ その他参考情報

■ 専門医取得後の進路

専門医取得後には以下のような進路が考えられ、それぞれの進路に対してのフォローを行います。

- ①新潟大学医歯学総合病院医科総合診療部に在籍し、診療、学生教育、研修医や専攻医研修（指導医資格の取得）を行い、希望により臨床研究を行い学位の取得を目指します。
- ②新潟大学医歯学総合病院総合診療部以外の施設（本プログラム連携施設等）において診療などを行います。
- ③日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療専門研修プログラム（当院のプログラムあり）に登録し、家庭医療専門医の取得を目指します。

■ 指導医

プログラム群において、総合診療専門研修Ⅰ・Ⅱについては、新設される総合診療専門研修指導医が指導にあたります。内科研修、救急研修、小児科研修、選択研修についても各科の専門医のもとで研修が行えます

問い合わせ先

担当者 医科総合診療科 医学部医学科総合診療学講座 特任助教 馬場 晃弘

TEL 025-227-0718

E-mail akibaba@med.niigata-u.ac.jp

ホームページ <http://www.med.niigata-u.ac.jp/mgm>